平成 28 年度学生受入部門活動報告

部門長　益子 典文

１．会議等の記録

平成 28 年度の会議記録を表 1 に示す。

表１　学生受入部門会議

開催日	主な審議議題
4 月 26 日	・平成 28 年度 学生受入部門構成員について ・平成 27 年度活動報告及び平成 28 年度の事業計画について ・教学ＩＲデータの取扱いについて ・高大接続システム改革会議「最終報告」及び３ポリシーの策定及び運用に関するガイドラインについて ・岐阜大学案内 2017 年版の作成について ・岐阜県高等学校長代表者との懇談会について
5 月 24 日	・岐阜大学案内 2017 年版の作成について ・岐阜県高等学校長代表者との懇談会について ・教学ＩＲデータセット分析結果について ・大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）について
7 月 5 日	・岐阜県高等学校長代表者との懇談会について ・教学ＩＲデータセット分析について ・平成 28 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会参加報告 ・平成 29 年度概算要求（入学者選抜改革分）について
8 月 5 日	・教学ＩＲデータセット分析について ・アドミッションポリシーの策定について
9 月 13 日	・2016 年度入試における志望動向について ・アドミッションポリシーの策定について ・岐阜大学案内 2018 の作成について
10 月 24 日	・アドミッションポリシーの策定について ・教学ＩＲデータセット分析について ・岐阜大学案内 2018 の作成について ・オープンキャンパスの実施結果について ・面接方法に関するＦＤの計画について

11 月 25 日	・アドミッションポリシーの策定について ・教学ＩＲデータセット分析について ・面接方法に関するＦＤの計画について ・岐阜大学案内 2018 の作成について
12 月 21 日	・アドミッションポリシーの策定について ・教学ＩＲデータセット分析について ・面接方法に関するＦＤの計画について ・大学入学者選抜試験における記述式問題出題に関する検討状況について
1 月 27 日	・面接方法に関するＦＤの実施について ・岐阜大学案内 2018 年版の作成について ・兼務者の教育職員評価（年度評価）について
3 月 22 日	・面接方法に関するＦＤの実施について ・岐阜大学案内 2018 年版の作成について ・平成 29 年度に開催される学外進学説明会等への参加について ・教学ＩＲデータセット分析について（資料３） ・国立大学協会アンケート調査「平成 32 年度以降の国立大学の入学者選抜」について

２．活動内容及び成果

部門業務は，次の４つのミッションに区分している。

（業務１：調査分析）入学者選抜方法の改善に係る調査・分析・検討

教学 IR データセット入試データの作成・分析

他大学調査・分析

入試制度の検証・改善案の作成

（業務２：広報）入試情報の提供及び広報活動

大学案内・募集要項作成公表

大学情報の受験雑誌等への出稿

オープンキャンパスの開催

学外機関主催の大学説明会への参画

高等学校の大学見学

高等学校への往訪

（業務３：高大接続）高大接続

高等学校関係者との懇談会

（業務４：その他）

『平成 27 年度業務報告』に基づき，『平成 28 年度活動計画』を次の「重点活動」として策定し，平成 28 年 4 月 26 日の第 1 回部門会議において承認され，年間を通じて活動を行った。

【調査分析】

〇継続活動

① 全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会，国大協シンポジウムなどに出席し，大学外の入試関連情報を５学部で共有した。

② オープンキャンパスのアンケート項目に全学共通項目（用紙：表面）を設け，参加者の属性，動機を分析することで，次年度の実施に向け，改善個所が把握できた。

③ 入試に関するデータ（進学産業から提供）を基に，平成28年度入試の動向を分析した。

④ 2016年度新入生に対し入学手続き書類に同封した新入生アンケートを実施した。

〇昨年度策定取組方針に基づく重点活動

(a) 教学ＩＲデータセットの活用方法の検討・施行 [認証評価（基準４）への対応]

部門会議で各学部から教学 IR 関連の分析命題を募集し，月に 1 回の頻度で開催された「教学 IR データ分析研究会」において分析を行った。また「教学 IR データ分析研究会」で新たに提示された命題の分析も実施した。これらの分析結果は部門会議で各学部に配布，入試方法の検討を促した。分析した命題数は 20 程度になり，教学データセット活用方法を蓄積した。

また，平成 27 年度に完成した教学ＩＲデータセット（①新入生アンケート（入学前活動を含む），②入試データ（推薦入試結果含む），③学務科目成績データ，基盤的能力調査データ，卒業時データ，就職先データ）の更新を継続した。

(b) 教学ＩＲデータセット活用に関する各種規定整備（教学企画室と連携）

機構・教学企画室と連携し，教学 IR データの取扱いに関する共通理解を文書化した。また，「教学 IR データ分析研究会」の活動を基盤とし，教学企画室内の組織として「教学 IR 作業部会」を設置する準備を行った。

(c) 面接法に関する FD の実施

部門会議で共通の課題であった，入学者選抜における面接法について FD を企画・実施した。長時間の FD であったが，全学部からの出席があった。

【広報】

〇継続活動

①『岐阜大学案内』の 2018 年度版の編集作業を推進した。

② 高等学校の大学見学への対処，学外機関主催の大学説明会への参画，マスコミへの取材協力などの入試広報に関する業務については，学部と連携して積極的に取り組んだ。

○昨年度策定取組方針に基づく重点活動

(a) 大学ＨＰ及び岐阜大学広報ビデオの活用（大学見学）

大学見学申込の告知を大学 HP 上で実施することについては次年度も検討を継続する。

(b)『岐阜大学案内 2017 年版』を完成し，全国に配布した。

(c) 進学産業の大学 PR 企画への参画

昨年度同様，厳選した大学説明会へ参加した。

【高大接続】

○継続活動

① ステークホルダーと対話する関係づくりの一環として，「岐阜県高等学校長代表者と岐阜大学との懇談会」のプログラム改善を行い，実施に向けて積極的に協力した。

○昨年度策定取組方針に基づく重点活動

(a) 高等学校関係者との対話の場の確保

【調査分析】と入試方法の検討を優先しており，対話の場の確保については次年度も検討を継続する。

(b) 「高大接続改革実行プラン」に関する情報収集・共有

高大接続システム改革会議の情報を常に収集し，学生受入部門内で共有した。

【その他】

(a) 上記活動を総合した第３中期目標期間の活動計画

概算要求（高大接続改革）に基づき，教学 IR データセットの整備を進めた。

３．課題及び次年度の取組方針

４つのミッションに関する課題及び次年度の取組方針は次の通りである。

【調査分析】

・教学ＩＲデータセットの活用[認証評価（基準４）への対応]

→　次年度設置の「教学ＩＲ作業部会」との連携方法を検討する

・面接法等入試改革・改善に対応する FD の企画・実施

【広報】

・大学訪問に関する大学 HP 告知の検討（継続課題）

・高校に対する新たな広報手法の検討

【高大接続】

・高等学校関係者との対話の場の確保（継続課題）

・高大接続システム改革に関する情報収集・共有

【その他】

・第３期中期目標期間の活動の推進（概算要求に係る計画の実施含む。）

以上

平成 28 年度教養教育推進部門活動報告

部門長　　野村 幸弘
副部門長　櫻田 修
橋本 永貢子
篠原　新

１．会議等の記録

全学共通教育に関係する業務は，授業編成専門委員会を中心に進めた。改革のための企画立案は，部門長，副部門長，機構専任教員によるワーキンググループで原案を作成し，教学企画室会議，ならびに授業編成専門委員会の意見も反映させた後，教学委員会に諮るというプロセスで業務を進めた。また今年度は，有志学生による「岐阜大学教育企画立案学生チーム」と月 1 回ミーティングを行い，学生の意見を積極的に取り入れる試みを始めた。

表１　授業編成専門委員会会議

開催日	主な審議議題
４月 11 日	大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について 放送大学に在学する特別聴講学生の受入れについて
５月２日	平成２８年度非常勤講師採用計画の一部変更等について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 平成２８年度前学期特別聴講学生等の履修について 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について 平成２８年度後学期授業時間割について
６月６日	平成２８年度教育推進・学生支援機構教養教育推進部門推進費（前期分）の配分について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定の申請期間について 平成２８年度後学期全学共通教育開講科目「Web 履修申請」日程について 平成２９年度「全学共通教育授業開講」の依頼と確認について 部会の活動報告と課題について
７月４日	平成２８年度非常勤講師採用計画の一部変更について

	大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 平成２８年度前学期定期試験の実施について 学生用図書の推薦について 平成２９年度非常勤講師採用計画の作成について 学生による授業評価アンケート（初年次セミナー）実施について
９月５日	平成２８年度非常勤講師採用計画の一部変更について 平成２９年度非常勤講師採用計画について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 休業日の授業実施について
１０月３日	平成２９年度非常勤講師採用計画について 平成２９年度新規開講科目について 平成２９年度開講授業計画について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 「大学外の企業・団体等からの申し出を得て開講する全学共通教育科目に関する申し合わせ」の作成について 平成２９年度履修案内校正・シラバス Web 入力の依頼について
１１月７日	平成２８年度教育推進・学生支援機構教養教育推進部門推進費（後期分）の配分について 平成２８年度後学期特別聴講学生等の履修について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 協定大学等のサマースクール等における学修の単位認定について 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について 平成２９年度新規開講科目について 平成２９年度開講授業計画について 平成２９年度履修案内の原稿依頼について 教養ブックレット「教養を身につけよう！」の原稿依頼について
１２月５日	平成２８年度非常勤講師採用計画の一部変更について 平成２９年度非常勤講師採用計画について 平成２９年度前学期履修申請日程について 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について インフルエンザ等感染に伴う全学共通教育授業の欠席学生の対応について 授業参観の実施について
１月１６日	平成２９年度非常勤講師採用計画の一部変更について 大学以外の教育施設等における学修の単位認定について 平成２８年度後学期定期試験の実施について

	平成２９年度前学期授業時間割について 教員ハンドブック（２０１７年度版）の作成について 平成３０年度以降の非常勤講師採用について ＣＡＬＬシステムの廃止について
２月６日	平成２９年度非常勤講師採用計画の一部変更について 全学共通教育授業担当教員定期意見交換会の開催について 全学共通教育ガイダンス日程について
３月６日	岐阜大学全学共通教育科目に関する規程の一部改正について 岐阜大学教育推進・学生支援機構教養教育推進部門推進費の配分基準の改正について 平成２９年度非常勤講師採用計画の一部変更について 平成２９年度前学期科目等履修生の受入れについて 平成２９年度前学期聴講生の受入れについて 日本語科目及び日本事情に関する科目の充当について 平成２８年度の活動の総括及び平成２９年度引き継ぎ事項等について 教養教育推進部門ＦＤ研究会の開催について

２．活動内容及び成果

・ 今年度の基本方針を「異分野からの学び」の継承，および「教養教育のアピール」とした。
・ 「教養教育のアピール」のため，今年度，新たに「教養講演会」を 3 回,企画・開催した。この内容をもとに，平成 29 年度に「教養講演集」を刊行する予定である。
・ 英語について技能別のカリキュラム（「英語 １・２・３・４」をそれぞれ Speaking, Listening, Reading,Writing とする）を工学部,および応用生物科学部で開始した。応用生物科学部の獣医学科以外の課程,および地域科学部では,これまで「英語１～３」を開講していたが、さらに「英語４」を付け加える検討に入った。
・ 有志学生による「岐阜大学教育企画立案学生チーム」の協力を得て，新入生が理解しやすいよう,「全学共通教育科目履修案内」を見直し，内容，表記をわかりやすくした。
・ 有志学生による「岐阜大学教育企画立案学生チーム」と協議を重ね，学部の枠を超えた学生たちが自主的に講師依頼を行って，毎月 1 回，金曜の夕方にサテライトキャンパスで高年次学部混成形式のセミナー「パーティーゼミ」を試行的に 4 回開講した。
・ 英語非常勤講師との懇談会を開催し，平成 30 年度以降の英語カリキュラムと教員の授業担当について,意見交換を行った。
・ 全学共通教育の「全学出動体制」を維持するため，新任教員の登録を赴任時に義務化することになった。

・ 専門部会の活動を定期的,実質的にして行くために,部会の規則を作成することを検討した。
・ これまでの「学生授業評価アンケート」の質問項目を見直し,新しいアンケート案を検討した。
・ 学生による成績異議申し立てに関しては，教員からの回答を執行部で内容確認してから学生に戻すことにした。
・ 教養教育の講義理由登録について、特に前学期で２回の抽選漏れになる学生が多いため,その対策として,後学期にも履修できることをガイダンスで周知時間割を確認したところ,特定の曜日、時刻に講義が集中しているところがあり,平成 29 年度の講義を依頼する際に開講時間を変更が可能か対象の教員に依頼した。
・ 定年,転出などで講義がなくなってしまうことについて,特に自然科学では前後期の開講数の減少が問題になっているため,その対策として,平成 29 年度は複合領域から,担当教員の了解を得て情報系の講義の一部を自然科学に移動した。調査の結果、教養教育担当教員の平均年齢も年々高くなっているので,今回,自然科学の講義数は増えたが,今後も新しい教員に講義を担当してもらうことが必要である。
・ 学生による授業評価アンケートで学生の満足度の高い授業を参観した。その実施報告書は,平成 29 年度にまとめる予定である。
・ 学生の読書習慣を促すため，図書館３階に「教養図書コーナー」を新設した。
・ ニュースレター「教養教育 NEWS」26 号を発行した。
・ 教養ブックレット Vol.10「教養を身につけよう！」の企画，編集，刊行を行った。
・ 非常勤講師，および英語特任教員の推進費の見直しを行った。
・ CALL システムの廃止に伴い，教室の用途変更について協議した。
・ 全学共通教育授業担当者意見交換会（3 月 2 日）において，部会ごとの分科会と全体会を開催し，全学共通教育の現状と問題点，今後の課題について話し合った。
・ 平成 28 年度第 1 回 FD 研究会「日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法」を学修支援部門との共催で開き，工学部と応用生物科学部の先進的な取り組みについて紹介し，活発な意見交換を行った。
・ 教養教育に関する情報を学生に周知するため，全学共通教育棟１階のエントランスに大型モニターを設置した。

３．課題及び次年度の取組方針

・ 「教養講演会」の開催，ニュースレター「教養教育 NEWS」27 号の発行などを通じ，引き続き，次年度も基本方針のひとつである「教養教育のアピール」を積極的に行う。
・ 「異分野からの学び」による履修方法の変更を理解していない学生がいるため，ガイダンス等で，その周知徹底を図る。

- 次年度から,新しい技能別の英語カリキュラムを教育学部,地域科学部,医学部でも始める予定である。また英語カリキュラムの改善と関連して，TOIEC，TOEFL 等の単位の読み替え（大学以外の教育施設等における学修の単位認定）を廃止の方向で再検討し,TOIEC, TOEFL 等の点数を基準に「上級クラス」への振り替え、「再履修クラス」の開講など、新たな取組みへと発展させることを検討したい。
- 専門部会の活動を定期的,実質的にして行くための部会の規則を作成する。
- 教学 IR 機能を強化し，データに基づいた改革案の策定につなげる。
- サテライトキャンパス早朝クラスを充実させる。

平成 28 年度教養教育推進部門の活動

教養教育推進部門長　野村　幸弘

教養教育推進部門では, 平成 26、27 年度に策定された基本方針「異分野からの学び」を継承しつつ、平成 28 年度は、年度初めに部門会を開催し、岐阜大学の学士課程における「教養教育（全学共通教育）の重要性」を学内外に広くアピールすることを活動方針の大きな柱のひとつに決めました。

教養教育推進部門の業務は、おもに授業編成、広報活動・ＦＤ、評価の３つからなっています。授業編成については、まずその前提となる「全学出動体制」を維持するために全教員の部会登録を目指しました。とくに新任教員については、赴任時にかならず人文、社会、自然、複合領域、英語、第二外国語、スポーツ・健康科学のいずれかの部会に登録することを義務付けることにしました。そして退職教員の開講科目の補充し、学生の受講状況を把握して、科目数、時間割の調整を行いました。

全学共通教育科目のカリキュラムのなかで大きく変えたのは、英語です。全共の英語教育については、すでに平成 26 年度から検討が始まり、平成 29 年度から工学部と応用生物科学部共同獣医学科で「英語 1 ～ 4」を技能別として、段階的に英語の運用能力が身につくようにカリキュラムを改善しました。このカリキュラムは平成 30 年度以降、他学部でも実施できるよう準備する予定です。

今年度の教養教育推進部門の活動の特徴は、有志の学生と毎月 1 回ミーティングを行い、協議しながら新たな課題に取り組んだことです。そのひとつが新入生に配布する「全学共通教育科目履修案内」をわかりやすい内容に改めることでした。そしてもうひとつが「高年次学部混成セミナー」を試行的に 4 回開講したことです。これは、岐阜大学で本当に学びたいことを学ぶ場を学生が自主的に作り、さまざまな学部の学生が教員を囲んで議論する少人数形式のゼミです。

広報活動・ＦＤで特筆すべきこととして、「教養教育の重要性」をアピールする目的で「教養講演会」を 3 回開催したこと、FD 研究会「日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法」を学修支援部門と共催で開催したこと、「教養を身につけよう！」と題した「教養ブックレット」Vol.10 を新入生向けに刊行したこと、図書館に「教養図書コーナー」を新設したこと、液晶パネルを全学共通教育棟の入り口に設置して教養に関する情報を常時流すようにしたこと、ニュースレター「教養教育 NEWS」を発行したこと、などが挙げられます。

評価については、これまで約 10 年間続けてきた「学生による授業評価アンケート」の項目の見直しを行い、平成 29 年度前期の授業から、新しいアンケートを実施することにしました。全学共通教育科目の授業参観も後期に行い、その報告書もまとめました。

そのほか、授業編成専門委員会の会議時間の短縮、予算の有効利用、部門会、専門部会などの組織のあり方の検討など、業務内容の大幅な見直しを行いました。

第 53 回　国立大学教養教育実施組織会議

平成 28 年 5 月 19、20 日、高松市で開催された第 53 回国立大学教養教育実施組織会議に参加しました。岐阜大学からの出席者は部門長の野村幸弘、副部門長の篠原新、廣内大輔、サポートルームの舩越高樹、教務課長補佐の西脇学の 5 人。

今回の全体会議のテーマは、当番校の香川大学が提出した「これからの教養教育について」。全体会議で興味深かったのは、三重大学教養教育機構が、初年次教育の一環として「アクティブ・ラーニング」領域を設け、前期に「スタートアップセミナー」、後期に「教養ワークショップ」を開講し、新入生全員（岐阜大学とほぼ同規模の約 1300 人）が「新書の書評を書く」という新しい取組みを始めたという発表でした。実現までに 5 年を要したとのことです。また宇都宮大学では、基盤教育センターが各学部の教養教育の重要性を認識している先生と、苦労しながらも精力的に連携して教養教育を推進されている様子が印象的でした。

分科会のテーマは、第一分科会「クォーター制の導入・実施状況について」、第二分科会「学士課程教育における教養教育の役割」第三分科会「教養教育における国際化対応について」、第四分科会「障害学生を対象とした修学支援の現状と課題」。とくにクォーター制については、すでに実施している大学、平成 29 年度実施にむけて準備をしている大学が多く、しかも各大学によって、その体制がじつに多様であることが分かりました。たとえば、千葉大学では 2 ヶ月を 1 タームとする 6 ターム制、東京大学と一橋大学では 4 ターム制と同時に、1 コマを 90 分から 105 分に、岡山大学では 60 分に変更しています。

第 1 日目の分科会後に開催された懇親会は立食形式で行われましたが、他大学の教員との活発な交流がほとんどないまま終わったのはたいへん残念でした。第 2 日目の全体会議の前に行われた神戸女学院大学名誉教授の内田樹氏の講演は、教員退職後の立場から、多忙をきわめる大学業務に理解があり、現在、教養教育に従事している会議参加者へのねぎらいの言葉にあふれていたものの、複雑な思いがしました。

新企画「教養講演会」の実施

教養教育推進部門では、平成 28 年度から新たに「教養講演会」を立ち上げました。大学在学中に、自分の専門以外の分野を幅広く学んで、教養を身につけるのが大切だということを学生に伝えることが大きな目的です。もうひとつの目的は、この講演会を通して、学生にこれまでまったく知らなかった学問の世界に触れてもらうことです。岐阜大学はさまざまな専門分野の教員、研究者がひとつのキャンパスに集結している総合大学であり、岐阜大学に入学した学生にそのメリットをぜひ実感してもらいたいと考えました。講演会の内容の詳細については、平成 29 年度に講演記録集を刊行する予定です。また動画によるドキュメントも、全共棟 1 階のモニターで流します。

「教養講演会」の記念すべき第 1 回目（平成 28 年 6 月 22 日）は、「森脇学長と教養について語ろう！」と題して、森脇久隆学長をお招きし、教養教育がいかに大事かについて語っていただきました。森脇学長はすでに入学式で新入生に向け、教養教育についてのメッセージを送られていますが、今回あらためてテーマを教養教育にしぼり、しかも参加者の学生たちと非常に近い距離でお話をいただくこと

ができました。この講演会は、eplus という学生有志のグループとの共催という形をとりましたので、森脇学長のお話を伺ったあと、参加した 25 名の学生たちとの活発な意見交換が行われました。

第 2 回教養講演会（平成 28 年 6 月 29 日）では、平成 28 年 7 月から選挙権が 18 歳に引き下げられたことを受けて、１、２年生を対象に投票への呼びかけをかねて、元内閣官房長官の武村正義氏をお招きして、投票の意味、投票の心構え、現代日本の政治状況、国際政治の動向について、くわしく語っていただきました。参加した学生は 21 名で、講演後には、学生たちから数多くの質問があり、武村氏はそのひとつひとつに丁寧に答えられていました。

第 3 回教養講演会（平成 28 年 10 月 26 日）では、富山県立大学の清水義彦氏をお招きし、「なんで、英語勉強しなあかんの？と中学生に聞かれました。あなたなら、どう答えますか？」と題して、英語を学ぶモティベーションについて話していただきました。教養教育推進部門では、平成 28 年度から全学共通教育科目の英語カリキュラムの改善に取り組んできましたが、大学の英語の授業に出席するだけでは、英語の運用力、実践力は身につきません。英語をマスターするには、授業以外の日々の英語学習が欠かせないと同時に、なぜ英語を学ぶのか、そのモティベーションがきわめて重要です。英語を学ばなくては、という必要性、必然性がなければ、英語学習に身が入らないのは当然です。そこで清水義彦氏には、講演のなかでスカイプを使って、台湾の小学校とリアルタイムでつないで会話するという、まさに世界は英語でつながっているという実例を示しながら、これからなぜ英語が必要になるのか、という話をしていただきました。講演には 58 名の参加があり、学生の関心の高さが伺えました。

第 1 回教養講演会　森脇久隆学長
「森脇学長と教養について語ろう！」

第 2 回教養講演会　武村正義
「選挙・政治ーこの国はどこへ行くのか」

第 3 回教養講演会　清水義彦
「なんで、英語勉強しなあかんの？と中学生に聞かれました。あなただったら、どう答えますか？」

英語カリキュラムの改善

岐阜大学の第 3 期中期目標に「１学士課程教育のグローバル化を推進するため、全学共通教育において各学部の人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を平成 28 年度に定め、それに基づき組織化された教員集団による英語教育を実施する」という項目があります。この目標を達成するために、平成 28 年度から本格的に平成 29 年度以降の全学共通教育の英語のカリキュラム改善に取り組んできました。工学部と応用生物科学部の 1、2 年生を対象とした「英語１・2・3・４」の授業を以下に図示したように、「話す」「聴く」「読む」「書く」の 4 つのスキルに振り分け、効率的に英語を学ぶカリキュラムにしました。それに合わせて、英語を担当する教員の力が十分に発揮できるような体制を整えることにしました。

応用生物科学部

1年前期		1年後期		2年前期	
英語1	Speaking	英語2	Listening	英語3	Reading
英語でごく簡単な「対話」ができる		自然なスピードの英語が聞ける		簡単な英語の文章が読める	

工学部・応生獣医

1年前期		1年後期		2年前期		2年後期	
英語1	Speaking	英語2	Listening	英語3	Reading	英語4	Writing
英語でごく簡単な「対話」ができる		自然なスピードの英語が聞ける		簡単な英語の文章が読める		基本文型を使って英語が書ける	

学生とのコラボレーション

「eplus」という有志の学生グループが、平成26年度に結成され、大学での学生の学習環境を良くするためにさまざまな提案をしてきました。メンバーは、長屋諒くん、佐藤直輝くん、永井小雪里さん、谷口広樹くんです。教養教育推進部門では、全学共通教育に関して学生たちの意見をしっかり聞き、学生たちと議論しながら、学生の学習環境の改善に取り組むことを重要な課題としています。大学という学びの場は、教員が一方的に学生に与えるのではなく、教員と学生の両者が一緒になって作り上げるものであると考えているからです。そうした考えをもとに、平成28年度はほぼ毎月1回、火曜日のお昼休みに教養教育推進部門長室に集まり、部門長、4人の副部門長は、「eplus」のメンバーと教養講演会の広報の仕方、高年次学部混成型「パーティーゼミ」の企画、「全学共通教育科目履修案内」の見直しなどを行いました（2016年5月24日、6月28日、9月27日、10月25日、11月29日、12月13日、2017年1月10日、1月24日、2月28日、3月28日開催）。

「履修案内」の改訂

「全学共通教育履修案内」は毎年、見直して改良を重ね、少しずつヴァージョン・アップをしてきていますが、平成28年度は、「eplus」のメンバーに「履修案内」を熟読してもらって、新入生により分かりやすく見やすい表現やレイアウトに変えました。今回、とくに力を入れたのは、「履修案内」の表紙です。この表紙には、教養教育推進部門の強いメッセージがこめられています。

表紙、裏表紙を一新しました

高年次学部混成セミナーの実施

「eplus」のメンバーは、かねてから学部の枠を超えた、学部混成型のゼミをやりたいと言ってきました。現在、全学共通教育科目の中に「初年次セミナー」というゼミがありますが、以前は「教養セミナー」という名称で開講していました。「教養セミナー」は、同じ学部、同じ専攻の学生で構成されている現在の「初年次セミナー」とはちがって、互いに異なる経歴、背景、興味、関心をもった各学部の 1 年生が、共通のテーマについて学び、意見交換をし、議論を深め、相互理解へとつなげて行くことを目的としていました。「eplus」のメンバーの考えでは、この「教養セミナー」のようなゼミを 1 年生対象ではなく、 3 年生、大学院生といった高年次で開講したいと言うのです。

そこで、試みに平成 28 年度は、教養教育推進部門の先生方を講師として、ゼミを開くことにしました。毎月 1 回、金曜の夜に岐阜大学サテライトキャンパスで開き、ゼミの後は、必ず？飲みに行く、という趣旨なので、「パーティーゼミ」という名称に決めました。

「パーティーゼミ」の第 1 回目（2016 年 10 月 14 日）は廣内大輔「大学について語ろう」、第 2 回目（11 月 11 日）は櫻田修「大学の環境への取り組みから考えてみよう」、第 3 回目（12 月 9 日）は前澤重禮「岐阜の食を楽しもう」、第 4 回目（2017 年 1 月 6 日）は野村幸弘「芸術がわかる、ってどういうこと？」というタイトルで、いずれも金曜の 17 時から 19 時まで、学生と教員が 10 人ほど参加して、レクチャーとディスカッションが行われました。そのあとは、議論は夕食会でも続き、21 時頃、散会となりました。

eplusu の学生がデザインし、作成した「パーティーゼミ」のフライヤー

第 4 回目の「パーティーゼミ」は、岐阜大学サテライトキャンパスのミーティンルームで開かれ、学生 5 人、教員 6 人が参加しました。

レクチャー後の夕食会が終わり、店の前で記念撮影

授業参観

毎学期行っている学生による授業評価アンケートで高く評価された教員の授業内容を共有し、それぞれの授業改善に役立てることを目的に、授業参観を毎年、実施しています。授業参観の対象は、体育系の科目を除く講義形式の授業で、25 名以上の受講者がいること、昨年度の授業満足度が 4 以上であること、平成 26、27 年度に対象となっていない授業であることを条件に、人文科学、社会科学、自然科学、複合領域、第二外国語からそれぞれ 1 科目、英語は 2 科目を選んで実施しました。人文科学は、松永洋介先生の音楽論（音楽への誘い）、社会科学は、金井幸子先生の社会法（労働と法）、自然科学は、清水英良先生の「教養の物理学」（物性の力学）、複合領域は、櫻田修先生の「岐阜の伝統産業」、第二外国語は、瀧藤千恵美先生の「ポルトガル語」、英語は、杉山容子先生の「英語 2」とヴァンヘトホフ・オノ先生の「英語 3」を選びました。

評価は下表のように、A. シラバス、B. 授業の準備、C. 授業の運営、D. 授業の内容、E. 自立的学習の増進という 5 つの項目を点検することによって行われます。「授業参観報告書」は、今後、平成 26 ～ 29 年度分をまとめて作成する予定になっています。

大項目	項目番号	点　検　内　容
A. シラバスについて	A-1	講義の狙い（学習・教育目標）や教養教育における本講義の位置づけが明確に示されている
	A-2	講義の内容はシラバスと適合している
	A-3	講義のレベルはシラバスと適合している
B. 教材・資料等あるいは授業準備について	B-1	適切な内容・量の講義資料が配布されている
	B-2	わかりやすい視覚教材（パワーポイント，動画など）を使っている
	B-3	実習・実験・観察等の準備は十分行われている
C. 授業運営について	C-1	話し方が工夫されている（明瞭で聞き取りやすい，スピードが適切，適切な間を取っている，など）
	C-2	板書が適切である（字や図がわかりやすい，量が適切，黒板の使い方）
	C-3	授業の運び方，説明の仕方，調べ方の指導が適切に行われている
	C-4	学生が重要なポイントを理解しやすいように工夫されている（要点の反復，具体例の提示など）
	C-5	講義の中での時間の配分が適切である
	C-6	学生が講義に参加できるように工夫されている（グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーションなど）
D. 授業内容・レベル・理解促進について	D-1	授業のレベル・ポイントが適切に示されている
	D-2	学生に質問を促し，理解度を確かめている
	D-3	小テストや演習問題などにより，理解度を確かめている
	D-4	レポートや試験問題の正答解説を行い，学生に返却している
E. 自立的学習・学習意欲の増進	E-1	学生が自ら考え，自立的に学べるように工夫されている
	E-2	宿題を課すなど，予習・復習を促している
	E-3	学生が興味を持ち，学習意欲を持続できるように努めている
		その他特記事項

全共授業担当者意見交換会

教養教育推進部門では、毎年全学共通教育担当教員による意見交換会を開催しています。平成 28 年度は、3 月 2 日（水）の午後 1 時～ 3 時に全共棟 1 F のコモンズ教室で開きました。前年度までは、前半の部会別懇談をそれぞれ別の場所で行いましたが、今回は前後半とも全ての部会が、一堂に会しました。部会別懇談は、人文、社会、自然、複合領域、英語、第二外国語、スポーツ健康の各部会に分かれ、昨年度の活動における問題点と今後の対応について話し合いました。後半は、全体会として、教養教育推進部門の平成 28 年度の活動報告、および各部会からの報告、そしてそれらの現状を踏まえたうえで、全学共通教育をより充実させていく方策について意見交換を行いました。

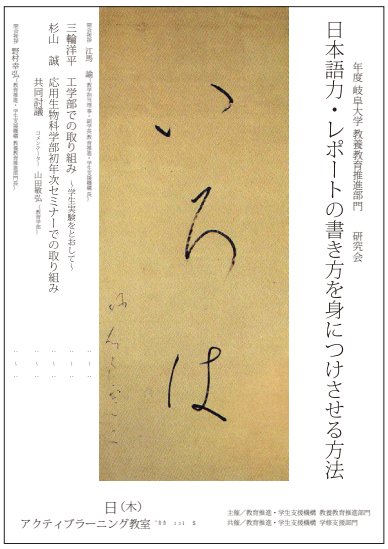
今年度より「異分野からの学び」を履修方針として掲げ、学生は履修科目に偏りがないように求められています。これまであまり関心のなかった分野を履修する学生もいる中で、より魅力ある講義を適切に提供するべく、開講科目や開講時間・時期について議論をしました。また担当者が一部の教員に固定化したり、担当教員の都合などで現在開講している科目が開講できなかったりという事態が起こらないよう、部会内の連携を高め、より多くの教員の参画を求めていくことを確認しました。

部会別懇談の様子

全体会での教養教育推進部門の活動報告と各部会の発表

FD 研究会の開催

教養教育推進部門は、平成 28 年度第 1 回 FD 研究会を学修支援部門と共催で、年度末に開催しました。テーマは「日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法」で、工学部の三輪洋平先生が「工学部での取り組み～学生実験を通して」、応用生物科学部の杉山誠先生が「応用生物科学部初年次セミナーでの取り組み」と題して、それぞれの学部で学生にいかにして日本語力、レポートの書き方を身につけさせるのか、その具体的な授業の内容、指導方法について紹介していただくとともに、教育学部国語教育講座の山田敏弘先生から発表に対するコメントをいただきました。工学部でも応用生物科学部でも、TA、SA を有効に使い、レポートを添削して返却するなど、手間ひまをかけた非常にきめ細かな指導をされていることが分かりました。



平成 28 年度第 1 回 FD 研究会のフライヤー

発表後の共同討議

「教養図書コーナー」の新設

岐阜大学の 7 項目ある「学生憲章」の冒頭には「本をたくさん読み、学んでいく上での土壌を作ろう。」と書かれています。自分の専門分野の本だけでなく、広くさまざまな分野の本を、若い時にたくさん読むことは、社会に出てからもきっと役に立つことと思います。そこで平成 28 年度の後学期から、図書館 3F 南側の書架に「教養図書コーナー」を設置しました。ここには、人文科学、社会科学、自然科学、語学、スポーツ・健康の各分野から、読みやすく分かりやすい入門書をはじめ、マンガで読める哲学や文学のシリーズ、自然科学の初心者向けのシリーズなどを中心に本を集めてみました。今後も、この教養図書の蔵書を少しずつ増やして、充実させて行く予定です。

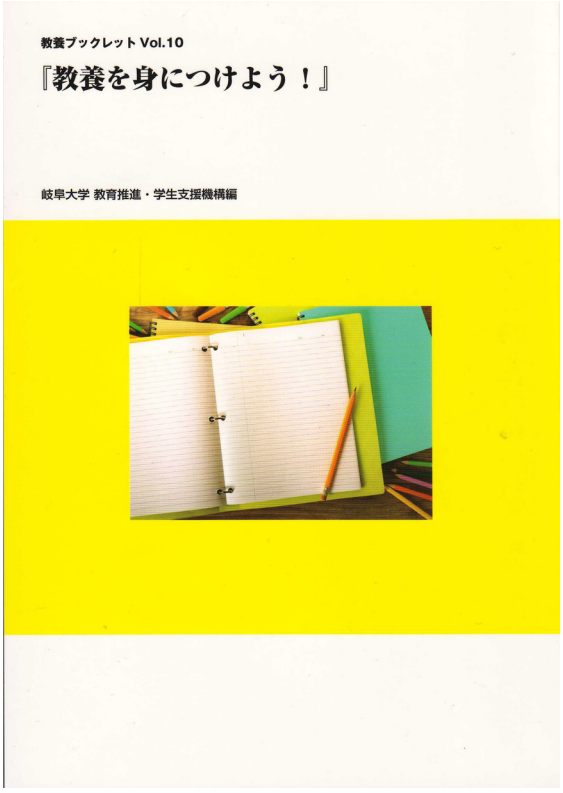
「雑学・濫読のススメ」と題した「教養図書コーナー」の書棚。分野別、著者別に分類されています。まだ書棚にアキがありますが、徐々に充実させて行く予定です。

「マンガで読破シリーズ」、very short introductions シリーズ、「今日からモノ知り」（トコトンやさしい）シリーズ、「基礎シリーズ」を全巻、取り揃えています。ほかのシリーズものも、順次、加えて行きます。

「教養ブックレット」vol.10 の刊行

教養教育推進部門は、平成 20 年度から、学生の自立的学修を支援する目的で、「教養ブックレット」を毎年 1、2 冊のペースで刊行し、今年度で 10 冊目の刊行の運びとなりました。これまで、第 1 分冊『人生を決めた書物』（平成 20 年度）、第 2 分冊『大学で勉強する方法』（平成 21 年度）、第 3 分冊『日本脱出！留学のすすめ』（平成 22 年度）、第 4 分冊『世紀の発明・発見』（平成 23 年度）、第 5 分冊『大学で「使える」英語を学ぶ方法』（平成 24 年度）、第 6 分冊『岐阜をもっと知ろう！』（平成 25 年度）、第 7 分冊『リベラル・アーツ　社会科学入門』（平成 25 年度）、第 8 分冊『小説を読もう！』（平成 26 年度）、第 9 分冊『学問との出会い』（平成 27 年度）を刊行してきました。そして今回のテーマはズバリ！「教養を身につけよう！」です（下写真）。岐阜大学の教員 37 人から原稿をいただき、各教員が考える教養とは何かについて、自身の経験などを踏まえながら、岐阜大学の学生、とくに新入生に向けて、熱く語っていただきました。教養ブックレット・シリーズは、学生や教職員といった学内のみならず学外でも好評を博してきましたが、その意味で、教養ブックレット・シリーズは、岐阜大学における教養教育の知的伝統を形成するに至っていると言えるでしょう。

Vol.1 ～ 9 までの「教養ブックレット」



平成 28 年度刊行の「教養ブックレット」Vol.10「教養を身につけよう！」

武村正義 講演録

「選挙・政治―この国はどこへ行くのか」

篠原 新　編集

2016年6月29日（水），岐阜大学教育推進・学生支援機構において，第2回教養講演会「選挙・政治―この国はどこへ行くのか」が開催されました。講師として武村正義元内閣官房長官をお招きし，投票の意味，投票の心構え，現代日本の政治状況，国際政治の動向等について，詳しく語っていただきました。これは，2016年7月から選挙権が18歳に引き下げられたことを受けて，1，2年生を対象に投票の意義について考える機会を提供することを意図したものです。本稿は，この講演の記録に加除修正を加えたものです。公刊にあたり，武村正義先生の校閲を得ました。記して感謝します。（編者）

武村正義先生のご略歴

教養講演会

2016 年 6 月 29 日(水)　13：30-15：00

岐阜大学教育推進・学生支援機構　篠原 新

武村先生ご本人を前にして，大変僭越ではございますが，私から武村先生のご略歴を紹介させていただきます。

武村正義先生は 1934 年に滋賀県にお生まれになり，八日市（ようかいち）高校を卒業後，東京大学教育学部や経済学部等をご卒業になっておられます。その後，自治省に入省され，愛知県や埼玉県への出向を経て，36 歳の時に八日市（ようかいち）市の市長に立候補され当選されます。それから 3 年後の 1974 年滋賀県知事に立候補して当選され，その後，3 期 12 年に亘って滋賀県知事を務められました。

1986 年に，武村先生は衆議院議員に当選し，自民党に所属され，1988 年に「ユートピア政治研究会」という政策集団を結成されます。武村先生はこの活動を通して，政治とカネの問題が中選挙区制度にあることを指摘し，以降，政治改革に取り組まれております。

武村先生は，1993 年，自民党を離党し，新党さきがけを結成されます。この後に発足した細川内閣では内閣官房長官に就任し，この時期に政治改革に主導的な役割を果たされました。村山内閣では大蔵大臣に就任し，2000 年まで衆議院議員を務められました。その後も龍谷大学等で教鞭をとられると同時に，多くの著作の出版やマスコミ等へのご出演など，現在まで，活発な活動を続けておられます。

このように先生は，政治を浄化するために，実際に政治改革にとりくみ，それを成し遂げられました。もちろんこれらの制度改革は，全てが武村先生の意図した通りではなかったと思いますが，これらの制度は現在も日本政治を規定し続けております。この意味で，現代日本政治の基本的設計図は，武村先生によって描かれたともいえると思います。

本日は，こうした大変貴重な経験をお持ちの武村先生に，「選挙・政治―この国はどこへ向かうのか」というテーマで，直接お話を伺う機会を得ることができました。こうした機会は，来月の参院選が初めての投票となる若い方たちにとって，とりわけ重要な意味を持つと考えております。

武村先生，どうぞよろしくお願いいたします。

岐阜の思い出

今，紹介をいただいた武村です。

あまり皆さんの教養になるような話をする自信はありません。野村先生や篠原先生に誘われてやってきましたが，岐阜大学はもちろん初めてであります。ここまで挨拶だから立ちましたが，あとは座ります（笑）。

皆さんに選挙とか政治の話をするのは，自分の若いころを思い出すとあまり資格がないなと思います。自分の若いころは，大変ほろ苦いというか失敗ばかり繰り返してきました。そんなことを今日は詳しく語りませんけれども，そういう私ですから，みずからを省みればみるほど，あのころの自分を思い出せば出すほど，偉そうに若い人に向かって物を言う資格はないなと思っています。失敗談を語って参考にしてもらう，そういう価値はあるのかもしれません。

私は今，滋賀でも一番京都に近い大津というまちに住んでおります。今日も大津駅から新快速に乗って米原駅で乗りかえまして，大垣でまた乗りかえて，やっと岐阜まで参りました。

昔々，私は百姓の息子ですから，あまり金がありませんでした。高校時代は親がいなかったから，ずいぶん反抗的で，学校の先生の言うことを聞かないことを誇りにしていました。生意気な高校生のくせに全く反省をしないで，とうとう校長に呼びつけられて，あしたから学校に来るなという無期謹慎処分を受けました。だけど，全然反省する気がないから，明くる日は学校へ行きました。この処分は間違っているというビラをつくって，学校中にばらまきました。そのうち，生徒会の会長選挙があるから立候補して当選したんですが，全校生徒を集めて，講堂で一言挨拶をしろと言われて，いきなり吉田内閣打倒という政治的な発言をしました。今やったら18歳で褒められてもいいんだけど，そんなスローガンだけ覚えてしゃべってしまうという，非常に愚かな，未熟なハイティーンでした。

高等学校を卒業して，友達はみんな就職や進学をして，ぽつんと一人になりまして，どうしようかなと卒業してから考え出した。迷っていましたら，一人，叔父がいまして，東京からわざわざ帰ってきて説教をしてくれました。とにかく受験勉強をしろと。俺が全部金は出してやると。受験勉強をして大学へ入れと。学費はずっと4年間俺が持ってやると。で，これからはエンジニアの時代だから，とにかく工学部へ入れと。そこまでおじが僕に指示をしてくれました。その当時，もう反省していましたから，素直にはいそうしますと。ところが，当時もう年末で，国立大学を受けようとは思っていましたが，当時8科目ぐらいありました。社会も2つあったし，理科も2つあって，生物，化学，物理か何か，そういう中から2つ選ぶんだけど，化学と生物ばかり勉強していました。物理を全然しないで工学部を受けようと思って各大学の案内を見ると，国立大学の工学部はほとんど物理が必須科目で，物理を勉強しないで工学部へ入れる大学はどこかにないかと思って探したら，名古屋大学だけ物理が必須じゃなかったんです。これはいいと思って，名古屋大学工学部機械工学科というところを受けて，合格しました。

合格したのはいいんですが，実際に名古屋へ行って大学の授業を受けたんですが，物理と特に図学に全然ついていけなくて，あるとき教授がこんな小さなモーターを持ってきまして，トンと机の上へ置いて，45度の角度の断面図を描いて提出しなさいという宿題がありました。どうしていいのかさっぱりわからんから，僕は親しい友達に1万円やってこっそり描いてもらって出しました。そのころから，図面も描けないのにもし工学部を卒業してエンジニアになったらとんでもない，嫌だなあと。これは間違ったと。おじが言うたから工学部を受けたけれども，これは間違ったといって，そこで勉強し直して，ようやく文化系の学校へ入り直した。こういうことで，大失敗をしました。

それで，8年ほど大学にいまして，2つ学部を卒業して，27歳で自治省というお役所に入りました。そして，愛知県庁へ行けという命令を受けて，隣の愛知県の県庁へやってきました。そこに3年いましたので，岐阜が非常に懐かしくて，今でも思い出すと楽しいところでした。毎晩遊びに行きました。今思うと岐阜の夜の世界が，特に柳ヶ瀬，美川憲一の「柳ヶ瀬ブルース」はその後ぐらいにできた歌ですけれども，とにかく柳ヶ瀬というのは全国的に有名でした。夜の色街で岐阜の柳ヶ瀬は，助平な男の憧れだった。京都や大阪からも来た人もあるんじゃないですかね。安くて女性がいっぱいいたね。何で女性がいたかと言うと，当時は繊維産業がまだ盛んで，特にこの尾張地方，尾張一宮とか岐阜方面は日本でも有数の繊維産業の地域でした。女工さんと言われたんだけど，若い女性がいっぱい全国から働きに来ていたんです。その女工さんの落ちこぼれみたいな人が夜の世界に，こっちが景気がいいから，女工さんをやめて，おしろいを塗って，柳ヶ瀬で働き出す人がいっぱいいたんです。あれだけ若い女性がたくさんいたから，柳ヶ瀬というまちが存在した。だから，せっせと名古屋からタクシーに乗って，二次会は岐阜へ通いました。そういうことをやっておりましたから，名古屋大学で失敗したのと，愛知県庁にいるときもあまり仕事をしないで柳ヶ瀬ばかり通っていたという2つのほろ苦い思い出を思い起こしながら，きょうは岐阜大学へ，皆さんの大学へ出てまいりました。

選挙とどう向き合うか

さあ，今は参議院選挙の真っただ中であります。日本も政治の季節のど真ん中ですが，まちを歩いていたり，電車に乗っていると，全然政治の雰囲気がしませんね。時々テレビを見ると，ああいう政見放送をやったりしているから選挙かなと思いますが，皆さんはふだんの学生生活を送っているし，大人の皆さんは仕事をしていると。でも，7月10日が来れば，投票日がやってきます。

選挙とは一体何かみたいな難しいことを申し上げるつもりはありませんが，憲法にも書いてある言葉ですし，公職選挙法なんていう異様に難しい法律もあります。そういうところに細かいルールをいっぱい決めていまして，選挙というものが行われているわけですが，国政の選挙は衆議院と参議院という2つの選挙があります。皆さんは，投票権をお持ちです。

もう大学に入っておられる以上は18歳以上でしょうからね。全員が今年から投票権をお持ちです。投票をしてもらわなければいけません。

本当は，もう一つ権利があるんです。これは被選挙権と言って，選ばれる権利があるんです。投票権というのは選ぶ権利。選ばれる権利もあるんですよ。だけど，衆議院は25歳とか，参議院は30歳以上とか，まだできませんね。年齢制限がついていますから。でも，25になったら衆議院に立候補できますよ。市会議員とか県会議員にも立候補できますからね。社会の経験を得た人が望ましいという意味で，被選挙権をちょっと遅くしているわけ。そういうことで，一般的には選挙権と被選挙権という2つの権利を国民は持っているということであります。

だけれども，これまた昔を思い起こすんですが，我が身を振り返ると，20歳代の私は選挙をどうしていたのかなと，あまりよく覚えていません。ほとんど半分以上は行かなかったんじゃないかな。学生ですから下宿先とか寮に入っていますよね。自分の住民票は自分の育ったところに置いてあるでしょう。だから，例えば名古屋大学に行っていたときは名古屋の寮にいましたけど，そこでは投票権がなかったんじゃないかな。田舎へ帰って，親元へ帰っていかないと投票できなかったんじゃないでしょうかね。昔はそうでしたから，東京にいたり，名古屋にいたり，学生のときは投票券を全然送ってこないもんだから，怠けていて行かなかった。また，たまたま夏休みか冬休みに選挙があって，投票券が来ても，本当に誰に書いていいかわかりませんでした。どの政党がいいのか，それもさっぱりわかりません。だから，私の20代，それでも5，6回は選挙に行ったと思いますが，当時，自民党という党に書いたことも1回ぐらいはあったかな。社会党というところには3回ぐらい書いたかな。民社党というところに一番たくさん，4，5回書いたかな。共産党にも2回ぐらい書いたかな。自分は精神分裂なんですね，迷っているからしっかりしていないんですよ。私の青春時代ですら，そのぐらい迷うというか，確信がないというか，選挙って今なおそういう難しさがあります。皆さんもそうだと思います。投票には行け行けと言われるから，これは行かないかんのかなとは皆さん思い始めているでしょう。でも，実際に行っても誰に書いていいのかわからん。どの党が本当に一番いいのか自信がない。多少いろんなことをテレビで見たりしているから，この党がまあまあましだなと思っているけど，この党は100点でこの党は0点ということはない。大体60点，65点，58点，このぐらいしか違わないんですわ。共産党はちょっと特殊だよ。でも，共産党もいいところもありますから，本当にそういう点数だと思います。50点，55点，60点，63点，65点，これぐらいの違いしか僕はないと思いますよ。なかなか見分けがつきませんよね。

選挙は絶対行ってくださいと僕はよう言いません。自分がそうだったから。でも，なるべく行ってくださいと申し上げたい。きのうおとといもテレビでしゃべっていましたけど，最後に若い人に一言と司会者に言われたから，とにかく投票に行って，よりましな政党を選んでください，よりましな人物を選んでくださいと言いました。だから，相対的な選択になります。絶対的じゃないですね。絶対この人がいいなんてことはできないから。どっちもどっ

ちだけど，まあちょっとこっちがましだなあというほうを選んで書いてくださいとテレビでは発言しておきました。

当選してから，ずっとまた見ていてください。選挙が終わってから，自分が書いた人がその後どう活躍をしているのか。あの投票は正しかったか。いや，どうもあれは見込み違いだったと，こっちのほうがもっとよかったなあと。イギリスのＥＵ離脱の話じゃないけど，離脱に投票してから，しまった，やっぱり残ったほうがよかったということもありなんです。だから，とりあえず相対的に選んで，よりましな人や政党を書いて，3年，4年，じっと見ていて，正しかったかどうか，みずからもそれを検証して，また正しいと思ったら，次も同じ政党を書けばいいし，いや，間違ったと思ったら，こっちの政党を書けばいいし，あちこち書いているうちにだんだんわかってくる。試行錯誤かもしれません。共産党がいいと思って2度まで若いときは書いたことがありますので，迷いの中で，しかしなるだけ選挙に行って投票はしていただきたいと思いますね。

選挙もそうですけど，若い人に申し上げたいのは，政治にはそれなりの関心を持ってほしいなと。毎日毎日，政治に興味を持つなんてことはできません。毎日することは仕事でいいです。あるいは趣味やスポーツでいい。そればかりにかまけていいけれども，ちらちらと政治のことを思い出して，ちらちらと考えてほしいなあというのが私のお願いです。あえて言えば，若者よ，政治から目を背けるな，政治から目を離すな，ということを言いたい。四六時中政治をにらんでいる暇はありませんからね。時々政治をにらみつけてください。じっと大きく目を開いてにらみ，こんな政治でいいのかと，本当の政治は何なのかということを，たとえひとときでも，時々考えてください。そうして，だんだん大人になっていってほしいと思います。みずからを振り返りながら，選挙のことはそう思っております。

世界の「遠心力」と「求心力」

今，イギリスの話を申し上げました。このイギリスという国で国民投票が1週間ほど前に行われて，ちょっとの差ではありましたけど，ＥＵからイギリスが離脱するという選択が多数を占めました。遠い遠いヨーロッパの島国であるイギリスですし，遠い世界の話のように思えますが，これはものすごく大きな出来事です。特に，これから50年，60年生きていく君たち若い人にとっては，大変大きな出来事だと思ってください。

地球全体が，人類全体が，分裂する方向から逆に連携する方向に変わってきたのは戦争の後です。第1次世界大戦の後もそうでしたけど，第2次世界大戦という大失敗を人類は経験して，もう二度とこんな戦争はしたらあかんという反省からスタートをしました。日本もそうだけど，世界中がそうでした。そこで，国際連合ができました。世界中が集まって，世界の問題はここで議論しよう，戦争のない世界をつくろうという流れがスタートをしました。

第1次大戦も第2次大戦もヨーロッパが発祥の地です。第2次世界大戦の時は，アジアで日本も並行して戦争を始めてしまいましたけど，それもドイツとフランスの戦争のほうが先

ですから。ヨーロッパで真っ先にけんかが始まって，それが広がって，世界中に回ってきたので世界大戦になってしまった。それで，ヨーロッパの国々は反省をして，二度と戦争をしないヨーロッパにして，もうこういうことはしない仲になりたいと本気でそう思ったんでしょうね，それがＥＵなんです。ドイツとフランスがそう思って，周辺の国が参加して，だんだんそれが広がって，28カ国というヨーロッパの大方の国が参加をして，ＥＵという一つの塊ができました。

これはしかし，アメリカ合衆国のように合衆国とまでは言えません。それぞれ国はまだ主権があり，独立しています。政治も独立しています。でも，経済はなるだけ垣根をなくして一本化していこうと。一番象徴的なのは通貨，お金ですね。昔，ドイツはマルク，フランスはフラン，イタリアへ行ったらリラとかで，ヨーロッパ旅行をすると，国を変わるたびに日本円を交換してややこしかったんだけれども，ここ最近はユーロという通貨ができて，どこでも通用するようになりました。

経済が垣根を低くしてまとまってきた中で，イギリスが国民投票で出ていくという方針が決まってしまった。これは，分裂・対抗はやめよう，なるべく連帯をしていこう，垣根は低くしていこう，物や金や情報が流れやすいようにしていこうという70年前から始まった世界の流れが，あくまでイギリスという一つの国の決定ですが，逆の方向を目指し始めたという，非常に異常なことが始まった。

単なるイギリスという国だけがそういうことをして，もう終わってしまうなら，世界全体にはそれほど大きな影響はないかもしれません。問題なのは，これから世界がどうなるかということなんです。ふっと考えると，世界中で，そういう流れが始まっているのではないかという見方ができます。

アメリカのトランプさんというおじさんが，今，頑張っていますね。あのおじさんが言っていることは，アメリカが第一だということをスローガンとして言っています。また，メキシコ人はもう来るなと。メキシコとアメリカの間に万里の長城みたいな壁をつくると。それから，イスラム人は全部出ていけと。そういう激しいことを言い出しているんです。言うのは勝手ですけど，それで人気が出ているんです。共和党という大きな政党のただ一人の候補になってしまった。民主党はクリントンというおばさんが候補になりましたから，このクリントンのおばさんとトランプというにぎやかなおじさんのけんかになる。11月のアメリカ大統領選挙では，トランプさんが当選するかもしれない。こういう動きが，日本にとって一番大事なアメリカのど真ん中で起こっているし，ひょっとしたらそれが大統領になるかもしれないというほどの大きさです。

ロシアという国を見ると，プーチンというおじさんが頑張っていますけど，この人もしょっちゅう言っているんですね，強いロシアと。昔，ロシアは強かったんですね。強いロシアに戻そうというスローガンです。それで国民の人気が高いんです。隣にウクライナという国がありますよね。2年前に，クリミアというウクライナの一番の保養地でロシアの国民がいっぱい出入りをしているところを突然プーチンさんが奪ってしまって，ここはもうロシア

にすると宣言しました。ロシア人はみんな喜んで，拍手喝采で，ロシア人はプーチンは偉いと言う。ロシア人の愛国心に火をつけたんですね。だから，ウクライナという国はわやくちゃですよ。自分の国の一番いいところをロシアが取り上げてロシアにすると言うたんだから。日本でも，横浜はもうアメリカにすると突然言われたら，あるいは北海道をロシアにすると言われたら，かんかんに怒りますよね。そういうことをプーチンさんはやった。

昔は領土のけんか，戦争をいっぱいしてきました。日本だって朝鮮半島を日本の領土にしたり，台湾や樺太を日本の領土にしたりしたこともありましたから，人ごとじゃないんですが，昔はそうだった。今はそんなことは世界中で起こらないのに，ロシアのプーチンさんは今までそれを1回やりました。世界中がびっくりして，ロシアに近い国が怒っています。

その隣の大きな国は中国ですけどね，あそこには習近平という，またもう1人おじさんがいますけど，このおじさんは何を言うているかといったら，偉大なる中華民族の復興というスローガンを掲げています。漢の時代か明の時代か知りませんが，ジンギスカンのまねをしているのか知りませんが，一番中国が広がって，一番強い大きな国だった時代に戻そうということを言っているんです。

そんなことを言っているもんだから，南シナ海に出てきて，船で島があるところを埋め立てて，基地を2つも3つもつくっちゃったでしょう。フィリピンもベトナムも日本もアメリカも怒っていますね。世界中が自由に使える海を，私らの領土・領海やということを言い出したんです。おまけに，日本の領土だと思っている尖閣諸島まで船が近づいてきている。中国も100年前の帝国主義のまねをしていると僕は言うているんだけど，ロシアもそうだし，中国もおかしいです。今ごろ強い中国，偉大なる中国に戻すなんてことをね。

みんな内向きなんです。自分の国内を見て，何を言うたら人気が出るかと，愛国心をあおるようなことをみんなやっているんです。日本の安倍さんもちょっとそれに近いんだけど，安倍さんのことをあまり言うと，叱られそうだから言いませんが，安倍さんは露骨じゃありませんけれども，あの人もかなりタカ派の人ですから，そういう雰囲気がちらっとします。でも，それは安倍さんだけが悪いんじゃない，世界中がそうなんです。だから，そういう世界中の流れの一角にイギリスの国民投票によるＥＵ離脱という政治が起こってしまった。だから，この影響が大きいというか，あちこちに火がついて広がっていく。

専門用語で，皆さんの理科系では遠心力とか求心力という言葉があるでしょう。求心力というのは，物事をまとめていく力があるね。遠心力というのは，分裂させていく力があると，こう僕は思うんだけれども，世界全体が70年前から求心力を発揮して，なるべくまとまろうと，垣根は低くして流れをよくしようという方向でやってきたのが，最近になって遠心分離機が働き出した。あちこちで遠心力が働いている。そういう世界情勢であります。これは大変大きな出来事で，これはとめなきゃいけませんし，そんな流れがどんどん大きく広がっていったんでは，世界はがたがたになります。戦争どころではなくなるかもしれません。だから，必死でとめなきゃならない。

スペインで2，3日前，イギリスの国民投票でＥＵ離脱というショッキングなことをやら

かした後，スペインで総選挙があって，あそこでもＥＵから出ようという主張をしている政党があったんだけど，その政党は負けました。スペインはイギリスの状況を見て，同じことをやったらあかんという国民世論が出てきているのかなあと，僕はスペインの総選挙の結果を見てそう思いました。だから，遠心力が働く方向も強まっていくかもしれませんが，逆にそうなればまた求心力が，そんなことはやめておこうと，まとまっていこうという力も強くなってくる，この勝負だと思いますね。そういう状況にあります。

安倍晋三総理大臣の二人の祖父

最後に，日本の政治のことをちょっと触れますが，私は自民党という党に8年ほどおりました。その後，飛び出して，新党さきがけという党を仲間でつくりまして，そこに7年ほどいて，国会議員をやめました。

そういう人間ですが，自民党に行ったときに安倍派という派閥に所属していました。当時は派閥全盛時代で，自民党はがっちり派閥で分類されていました。自民党という大きな党だけれども，〇〇派，私がいたころは中曽根派というのがあったかな。それから，宮澤派というのがあったかな。竹下派というのがあったかな。安倍派というのがあったかな。そういうのが5つか6つあったんだけど，私はその安倍派というところに入りました。どこかに属さないと自民党では仕事ができないものだから。

私が滋賀県の知事をやって国会議員に当選して東京に行ったら，今言ったような偉い人が，たとえば中曽根さんから電話が直接かかってきて，「武村君おめでとう，ちょっと一晩あけてくれんか，食事をしよう」と。その後に竹下のおじさんからも電話がかかってきて，知っている人も知らん人も面識のある人もない人も同じように御飯を食べようと。宮澤喜一さんからもありましたし，みんなからありました。えらい俺はもてるなあと思って，その瞬間だけは喜んでいましたけど，それは自分の派閥に来いという意味ですね。一人でも数が多いほうがいいから。そんな派閥の偉い親分さんがわざわざ電話をかけてきて，俺のほうに来てくれという誘いの電話でした。あれこれありましたが，安倍晋太郎さんという人の派閥に入りました。それが安倍晋三という今の総理大臣のお父さんです。安倍晋太郎は外務大臣をやって早く亡くなったものだから，総理大臣になれなかった人です。

皆さんもおじいさんとおばあさんが2人ずつあるでしょう。安倍晋三さんも，おじいさんが2人いるわけだ。2人とも政治家なんです。この2人の安倍さんのおじいさんが非常に対照的というか，一方は戦争に協力した人（岸信介），もう一方は大東亜戦争に反対した人（安倍寛），このように典型的な2人のおじいさんがおられます。安倍晋三さんは，戦争に協力したおじいさんを誇りにして自慢にしている。戦争に反対したおじいさんのことは一言も語らない。偏っているんです。

実は，こっちのおじいさん（安倍寛）は，当選して1回か2回で病気で亡くなられました。あまり有名な政治家にならずに終わりました。もう一方のおじいさんは，総理大臣もやった

岸信介という人。戦後の総理大臣をやった岸さんがおじいさんです。この岸さんは，第2次世界大戦のときには東條内閣の閣僚でした。だから，全面的に東條さんに協力したの。ちょこっと戦後反省しはったけど，A級戦犯にもなった人。あの戦争を進めてきた張本人の一人なの。もう一方（安倍寛）は東條内閣に断固反対をして選挙に当選しはった筋金入りのおじいさんも1人いるんです。

そういう対照的なおじいさんを安倍晋三さんは持っているけれども，専らこっちのおじいさん（岸信介）を誇りに思っているし，このおじいさんのできなかったことを俺がやろうと思っているらしいんですね。一番大きいのは，憲法改正。集団的自衛権もそうかもしれません。そういう岸信介さんがやり遂げられなかったことを自分の代にできたらやろうと。おじいさんから喜んでもらおうと思っているのかどうか知りませんが，そういう考え方を持っているのが安倍晋三という今の日本国の総理大臣であります。

今後の日中・日韓関係

隣の国とはもう少し仲よくしたほうがいいんじゃないかというのが，きょうの話の最後のテーマです。言葉を変えれば，韓国，中国ともう少し日本は仲よくなれないのかと。

大体世論調査を見ておりますと，ここでもおそらく，韓国が好きな人といったら5，6人挙げるかどうか，2，3人かもしれない。嫌いな人だったら，ここの大方，半分以上の人が挙げるかもしれません。大体，それが日本人全体の常識というか雰囲気です。

政治がどうこうという前に，国民がそういうふうに偏ってしまっている。これは裏返すと，韓国へ行くと日本嫌いが多い。中国でも，日本嫌いというのが多数。こんなことでいいのかと。これもさっき言った遠心力も働いているんじゃないですか。皆さんも無意識のうちにそういう意識に落ちているんじゃないかな。大体嫌いな理由は，中国の場合はさっき言った南シナ海とか尖閣列島にどんどん船がやってくるからとかなんですね。あれを見ているとけしからんと僕も思います。だけど，それで全て中国をペケとしてしまっていいのかということです。韓国ともいろんな関係がありますけど，全体でもう嫌い，あの国は嫌と，そんなふうに決めつけていいのかと。もう少しお互いに冷静に，多面的に相手を見るように努力をすべきではないか。多面的にということは，いいことも悪いことも両面をよく見て，総合的な判断をするようにしてつき合うようにしないといけないのではないか。

極端な話をしますと，この間，オバマ大統領がサミットに来て，安倍さんと連れ立って広島へ行きましたね。広島へ行って，あの慰霊碑に大きな花束をささげてくれました。それで，じっと目をつむって，しばらく立っていました。たしかにおわびの言葉は言いませんでしたけれども，原爆投下によってたくさんの命が失われたことを深く悔やんでくれたと思うんですが，あれはよかったと思います。アメリカ人も大方そう思っているようです。

その後，テレビか新聞で，オバマが広島へ来てくれて花束をささげてくれたそのお返しに，安倍さんはハワイへ行って，パールハーバーのどこかに花束をささげて，日本側の反省の態

度を示すべきではないかという発言がありました。なるほどと多くの日本人は思ったのかもしれませんが，僕はその後で気がついたの。待てよ，パールハーバーへ行っておわびするのもいいけど，その前におわびしなきゃならん国があるぞと。それは中国だと思うの。安倍さんが真っ先に行くべきは中国だと。アメリカより先にね。そして，場所はあえて言えば南京虐殺をやったといわれている南京というところへ行って，あれも何万人も殺したと言われるけど，私は何百人ぐらいだと思っているんだけど，何百人でも虐殺は虐殺ですからね。あそこに揚子江という川がそばを流れていますから，そこの川辺に安倍さんはひざまずいておわびをしたほうがいいなと，僕はそう思いました。

この話は，皆さんが聞いたらまだぴんとこないでしょう。でも何で私がそんなことを言うのかというと，実はあの第2次世界大戦で，日本は圧倒的に多くの中国人を殺しているんです。どのぐらい殺したか知っていますか。全然学校では教えてくれません。数は教科書に出ていません。僕も確たる数字は知りません。でも，ＮＨＫが，あるときに1000万ということを報道で言うたことがあります。1000万というのは傷ついた人も含めてかもしれませんから，数百万人ぐらい日本兵が中国人を殺している。原爆投下では，20数万の日本人が犠牲になりましたけど，これも大変残念なことです。でも，もうその何十倍も，10年間，日本は中国で戦争をしていましたから，たくさんの人を殺しているし，家を焼いておる。1000万なんてすごい数の人を殺しているのが日本と中国の戦争なんです。これが中国側にとってはずっしり重たい歴史の事実なんです。

よく歴史認識と言われるけれども，これを我々日本人は全然知らない，教わっていない。僕のような年長者でも教わっていません。私は，戦争が終わったときは小学校5年で兵隊さんには行っていませんから，小学校，中学校，高等学校で全然教わっていません。考えると，歴史というのは学びましたけど，あるいは受験勉強で勉強をしたけど，大体明治維新で終わっているんです。古代から始まって，源平合戦やらが来て，室町時代が来て，江戸時代が来て，それで明治維新が起こって，大体あの辺でもう3学期になって授業は終わりになる。その後のいわゆる現代，ここ100年ぐらいの歴史というのは学校の先生は教室で教えていない。教科書には書いてあるんですよ，読むと南京事件なんかは書いてある。だけど，そこを全部教えない。試験問題でも出ない。だから，ほとんどの日本人が知らない。僕が言ったような，何百万とか1000万人も中国人を殺したって，そんなことがあるかと皆さんは言うかもしれんけど，事実なんですよね。10年間，日本と中国は戦争したんですから，中国ほぼ全土でずっと日本が攻めていって戦争をしたんですから。そういうことを我々のおじいさんの時代かもしれんけど，日本はやらかしていると。

中国人にとっては，被害を受けたほうだから，まだ過去じゃないんです。うちのおじいさんは日本兵にやられた，昔の私の家は日本兵に燃やされたとか，そういう生々しい思い出がいっぱいあるわけだから。中国は，徹底してあの戦争のことを教えている。博物館とかでいっぱい展示しています。このギャップが大きいんです。

韓国と日本もそうです。韓国という国を，日本は36年間日本の領土にしてしまったんで

すよ。さっき，ロシアがクリミア半島をとったと言ったが，ああいうことを日本は大正の初めから，朝鮮という国を全部日本の領土にしてしまった。僕らの小学校時代は日本の国は赤で色を塗っていましたけど，朝鮮半島も赤で塗った。樺太も半分赤で，下の台湾も赤で，日本は結構，今の倍ぐらい領土があった。韓国という歴史のある国を日本国に編入し，36年間日本が支配をした。

これ，逆のことを想像してください。韓国に我々がもし逆に占領されて，36年間も韓国領土にされていたとしたら，どう思いますか。あしたから日本語を使うな，韓国語で小学校は教える，こうなるわけですよ。韓国の神様を拝め，こういうことをやったんだ。日本の国にしたから，日本語で学校を教えたんだ。名前を韓国名じゃなくて日本名に変えろと。この歴史の事実というのはものすごく罪が深い。

この2つは過去の話だけれども，歴史の事実は事実として皆さんも知っておいてください。こんなのはいつまでも謝る必要はないし，いつまでも覚えている必要はない。でも，何かのときには思い出してください。こういう事実があったということは，日本人である以上は覚えておかないと，隣国と本気でつき合うことができない。ますます仲が悪くなってしまうと思います。

以上，もう時間が来ましたので，私の話はこれで終わらせていただきます。御清聴ありがとう。

質疑応答

【司　会（野村幸弘教授，以下同じ）】

武村先生，どうもありがとうございました。ぜひこの機会に，皆さんのほうから武村先生に御質問がありましたら，どんどん挙手をいただいてお尋ねしていただければと思います。

【質問者】

貴重なお話をありがとうございました。話を聞いていて，どうやって謝罪をすればいいんだろうというのがすごく気になっています。例えばナチスドイツなんかも，本当は何かの形で贖罪をずっとしていると思います。そのあたりのことを，僕は全くわからなくて，どうやって謝罪をすればいいのかということを聞きたいのですが。

【武村先生】

大変大事な点なんですが，実はドイツと日本の違いは，両方とも戦争をしでかして，敗戦国になって，外国に占領されて終わった国なんですが，ドイツ人はヒトラーを中心にしたナチスという当時の戦争を主導した連中の罪を今でも追及しています。またドイツ自身が，まだ生き延びていて南米あたりに隠れている連中を探し出して，捕まえたらドイツ人が裁いています。要するに，あの戦争をみずから裁いたと思います。

ところが，日本はあのでかい戦争をしでかしておいて，日本みずから裁いていないんです。戦争が終わったとき，アメリカ軍がやってきました。マッカーサーが来ました。マッカーサーが極東軍事裁判所という裁判所をつくって，これはアメリカだけじゃないです。それは当時の連合国，イギリスもフランスもロシアも中国も入っていました。アメリカが中心になって軍事裁判所をつくって，それで主だった戦争をやらかした日本人を，東條英機やらを引っ張り出して，おまえは絞首刑だ，おまえはA級戦犯だ，B級戦犯だ，全部ぽんぽんと決めて，何人かは絞首刑になりました。アメリカがやったものだから，日本は何もしなかったの。アメリカが裁いてくれたということで，日本人はそれで満足してしまったのか，サンフランシスコ講和条約で，その極東軍事裁判の結果を日本政府は尊重しますと言うて，それで終わっているんです。

繰り返しますが，日本人がみずからあの戦争を反省して，誰が悪かったかということを裁いて，きちっと総括はしていない。西ドイツはそれをやっているんです。その違いがあります。

日本人って，何か優しいというか，あるいはアバウトな民族というか，私が思うのは，過去のことはあまり追求しないたちですね。皆さんの仲間でも，何かトラブルがあっても，友達とけんかしても，もう2年か3年たったら，もうそんなことええやんかと許してあげるでしょう。それが日本人の常識なんですね。ところが，自分がやらかした戦争という大犯罪でも，知らん顔をして，アメリカがやってくれたからもうええ，日本人は前を向いて，どんどん前向きに生きてきた。済んだことはもう振り向かなかったのが，我々日本民族です。

これは日本民族のキャラクターだと私は思っていますし，それで非常にいいこともありますよ。きのうまで，アメリカなんて鬼か蛇やと言うたんですよ，鬼畜米英と。アメリカ人が来たら撃滅しようと。僕も小学生だったけど竹やぶに行って，竹を切ってきて，兄貴と一緒にとがらせて，アメリカ人が来たらこれでアメリカと戦おうと思っていました。少年でもそんな思いでいたのに，一旦負けたら，もう進駐軍といったらみんな憧れの兵隊さんで，進駐軍の前に行って手を出してチューインガムをもらって喜んでました。変わり身が早いんですね。殺してやろうと思ったのに，きょうは手を出してチューインガムをおくれと言うている。単純に心変わりができるのが我々日本人なので，日本人は変わり身が早いというか，過去をいつまでもこだわらない，前を向いて生きるという，いい面もあるんだけれども，そういう性格がちょっと国際的には問題なのかもしれません。

さっき言った韓国や中国との関係でも，もうそんな古い話はいいじゃんかと日本人は言いそうだ。どっこい，向こうさんは古い話をしっかり覚えている。そこにギャップがあって，トラブルが起こりやすいということです。

【司　会】

ほかにいかがでしょうか。

【質問者】

お話をありがとうございました。70年前からの世界がまとまるという流れに対して，ここ最近は分裂が始まっているというお話をいただいたんですけど，なぜ今になってそのような流れが始まったのかというのと，今までの自分の国，アメリカだったらアメリカを象徴したいという気持ちはいつの時代もあったと思うんですけど，こういう気持ちと，今のトランプさんはどう違うのかということについて教えていただけないでしょうか。

【武村先生】

イギリスがＥＵから離脱するという動きがこのところ毎日のように報道されて，いろいろ解説されていますね。そこで，何でＥＵから出ていくのかという理由の一つに，移民という問題があります。残念ながら，我が日本には移民・難民がほとんどいません。日本政府は非常に厳しく審査をするものだから，ほとんど移民・難民が入ってこられない国になっています。これが大きな問題なんですけど，ヨーロッパはどんどん移民が入って，今，戦争をしているシリアとかイラクからもたくさんの難民・移民がヨーロッパを目指して動いています。

今，イギリスで問題になっているのは，ＥＵという28の国の中で，経済の進んだ国とおくれた国がありますね。ポーランドとか，こういう経済のおくれた，ＥＵに入っているけれども，おくれた国の連中が，どんどんイギリスやドイツへ働きに行くわけです。はるかに給料がいいから，どんどん働きに行く。それは，イギリスから見ても大変ありがたいんですけど，しかしイギリス人の仕事をどんどん移民が奪っていくという被害意識もあるんです。末端の庶民の人にはそういうものがあって，外国人にイギリスがのっとられると，私らの大事な仕事をどんどん外国人がとっていきよると，そういう被害者意識がＥＵというものに対する反発になっていると。こんな連中がこれ以上ふえていったら，我々の大事な税金がみんなそっちの移民のほうに使われていくという，そういう被害意識も出てきている。そういうのがああいう反発になってしまった。

よく言われていますように，イギリスは昔，大英帝国といって，7つの海を支配して世界中を支配していた，そういうよき時代もあったわけですから，年寄りはそういう昔を懐かしみながら，移民に占領されているイギリスなんてけしからんと，こんなＥＵなんか早く出ようという雰囲気が出てしまう。

アメリカのトランプさんが言っているのも，メキシコに壁をつくって，メキシコ人が来れんようにしようと。たしかににメキシコ人って，ちゃんと正規のルールで入ってきているのもいますけど，メキシコからアメリカは国境がつながっていますから，勝手に入ってこられるわけ。不法移民というんだけど，許されないのに入ってきた連中が大半です。ものすごいたくさんのメキシコ人がアメリカにやってきています。もちろん，イスラムの連中も，世界中からたくさんアメリカにやってきていますから，これもイギリスと同じようにアメリカ人の大事な仕事をどんどん奪われていくという気持ちがあって，そこにトランプがうまく

火をつけて，愛国心を起こさせるような演説をするんですね。

おまけに日本もとばっちりを受けて，日米安保条約なんかやめちゃえと，もしやりたければ日本が丸々100％金を持てと。日本が困ったらアメリカは助けてやる，アメリカが困ったら日本は助けなくてもいい，こんな不平等な条約はあるかとトランプは言うているんですよ。事実，日本はアメリカを助けに行くということは書いていません。だけど，日本は大事な基地をたくさんアメリカに提供しています。アメリカから見れば，日本を守るだけやなしに，その日本の基地のおかげで，アジアから世界全体を守る基地が日本にできていると，そういうアメリカ側のプラスがある。それで成り立っているのが日米安保条約。だけど，トランプはそんなことを知っていても知らん顔をして，アメリカが攻撃されても日本はアメリカを守る必要がない，そんな変な安保条約はもうやめてしまおう。もしやりたけりゃ日本が全部金を持てと，こういうことを言うている。必要があれば日本が経費を持ったっていいじゃないかとまで言ったりしていました。そういう荒々しいことをトランプさんは言っている。

トランプというあのおじさんが言うているだけなら大したことないんだけど，そのトランプさんをアメリカ人はみんな投票しているんです。共和党の候補も十何人いたのがみんな負けてしまって，トランプだけが勝ちました。今度はいよいよ民主党のクリントンと大げんかをしますけどね。だから，クリントンさんは負ける可能性も，多分クリントンさんが勝つと僕は思っていますが，でも絶対じゃないですね。トランプが勝つ可能性も残っています。アメリカという国も，そんな危うい状況になっています。

【司　会】

はい，次の方どうぞ。

【質問者】

きょうはお話をありがとうございました。お話の中で，安倍政権についてお話があったと思うんですけど，私は安保法案とか憲法改正に関心があって，その問題について，今の自民党政権をどう思われているのか，お話を詳しくお聞かせ願いたいです。お願いします。

【武村先生】

私は，ちょっと微妙なんですよね。私は，自民党の国会議員を8年やっていましたし。今日はあまりお話ししませんでしたけど，政治とカネの問題についての議論に私は相当深入りして，当時リクルート事件なんて起こったりしたのだけど，自民党を変えようと思って，自民党の中で行動をしました。自民党の中から若い連中が集まって政治を変える法律をつくったりしたんですけど，全部幹部に潰されてしまいまして，それでもう自民党はだめやなあと，政治とカネの問題については自浄能力がない政党だと。自民党という政党はずる賢くて，クリーンな政党に生まれ変われないなと思ったものだから，自民党を飛び出して新党さ

きがけという政党をつくりました。新党さきがけという党で私は党首だったから，内閣官房長官とか大蔵大臣という仕事も経験したんですけど，その新党さきがけが，その後，民主党になっていったんですね。そういう意味では，流れとしては，今の民進党の流れの側に僕はいるともとれますが，もとを言えば自民党にいましたから保守的です。

自衛隊とか日米安保条約は正しいと思っています。だけど，集団的自衛権ということになると，これは必要であるとかないとかという議論をする前に，今の日本の憲法はそこまでは許していないと，これはもう常識です。日本人の憲法学者の99%までがそういう考えです。今の憲法9条では，集団的自衛権は認められていない。だから，安倍さんがいくらやりたくても，憲法上許されないと思う。安倍さんまでの自民党の総理大臣というのは30人ぐらいいますけど，どの総理大臣も，中曽根さんも，竹下さんも，田中角栄さんも，みんな集団的自衛権は憲法上できませんと言うてきたんです。ところが，安倍さんは2年前に突然できると言うて，急に180度違うことを言うて，言うただけじゃなしに，ぽんぽんとそういうことのできる法律をつくって，多数で通してしまった。これが安倍さんがやった集団的自衛権を含めた安全保障法制のことであります。それでもとに戻りますが，自民党というのは大人の政党ですから，欠点もたくさんあるけど，大人の魅力を持った政党だと私は思っています。

民主党とか民進党とかというのは，理想を主張する政党で，言っていることはどっちかというと自民党より正しいことが多いかもしれません。だけど，地に足がついているかなという，あるいはそれだけの幅のある人物がどれだけいるのかなと，心配なところはあります。でも，僕に言わせれば，岡田さんなんて，あまり人気はありませんけど，総理大臣をやらせたら安倍さんより立派に僕はやると思う。事務的にかたいし，真面目で，大金持ちの息子だけれども，ものすごいけちんぼでね。御飯を食べに行っても，絶対に割り勘。お父さんはイオンの偉い人でその息子ですからね。だから，家は大金持ちです。だけど，全然金を使わない。けちんぼというよりもきちっとしている。だから，全部飲みに行ったら割り勘です。でも，割り勘と言いながら，黙って1万円置いて帰っていきます。そういうきちょうめんな男なの。でも，東大を出て，通産官僚をやって，頭はすごくいい男ですから。ただ地味な男ですから，人気が出ないのが残念ですけど，立派な政治家の一人には違いありません。だから，民進党にも何人かそういうすぐれた政治家はいます。

自民党のほうが，悪いこともするし，善悪併せ呑むような男がたくさんいますから，それが親しみを感じるんですよ。善人ばかりだったら，かたくてかたくて。悪いことをするやつがおるから，何となく自民党は親しみを感じるというそういう感じがあるのかもしれません。

【司　会】

ほかにはありませんか。

【質問者】

すばらしいお話をありがとうございます。とても勉強になりました。先ほどの話題に戻ってしまうんですけれども，世界中が分離主義というか遠心的な方向に行っているという話がありまして，そういったことが過去には大きな二度の世界大戦という悲劇につながっていたので，我々としても，これからはそういうことを繰り返さないために選択をしていかなければならないんだと捉えました。そういった中で，選択の一つとして選挙を控えているわけなんですが，これからそういう危機を避けるために，我々はどのような心がけをしなければならないのかという御助言を武村先生からいただけたらと思います。

もうひとつ，隣国と仲よくできないかということがあって，歴史認識とか歴史的な確執を取り除こうということもあったんですが，現在の世界の遠心的な流れの中には，資本主義とか現在の経済社会の限界もあると思うので，そういった歴史的なこと以外にも，我々が日常的に心がけられることがありましたら御助言をお願いいたします。

【武村先生】

その答えにはならないかもしれませんが，私は今年も中国へ行ってきました。今月行ってきました。何しに行ってきたかというと，北京経由で銀川という内蒙古の奥のほうのまちへ飛行機で飛びまして，ホテルからバスで2時間ほど行くと砂漠があり，そのど真ん中へ行ってきたんです。そこでスコップを握って，砂漠に60センチぐらいの穴を掘って，2メーター50ぐらいの木をどかんとそこへ入れて，砂をかけて水をやって，砂漠で木を植える活動をしてきたの。30人ぐらい連れて行ってきたの。これは毎年1回行っているんです。もう16回行っています。16年前から砂漠緑化，中国の砂漠で木を植える活動をずっとしてきました。10年ほど前に植えた木は，森になったところもありますよ。なかなか自分でも満足しているんだけどね。今年もみんなで植えに行きまして，中国の砂漠が少しでも減れば，日本に来る黄砂が少しだけ減るかなと，そんな思いもあって，地球を緑化する活動を中国という国の一角でずっと続けています。

昔，遠山正瑛さんという大学教授がいまして，大学を引退されてから，内蒙古という中国の砂漠へ行って，そこで20年ぐらい住み着いて，毎日毎日黙々と木を植えてはった。そういう偉いおじいさんがいるんです。とうとう中国のほうがこの人を注目して，政府が銅像を建てたりして，砂漠の英雄と言われた。僕はその人に東京でお会いして，遠山さんが木を植えるところへ連れていってもらって，その仕事に魅せられてというか感動して，それから木を植える活動をずっと続けています。もう遠山さんは亡くなり，僕は遠山さんの1万分の1ぐらいしかしていないんだけれどもね。遠山先生は住み着いて，毎日毎日，木を植えて，今は森になっています。国際貢献というし，日中友好関係というけど，砂漠で黙々と木を植えるという，そういう仕事もわかりやすい一つの日中関係だというふうには思います。

あと1つは，歴史の勉強を若い人にはしてほしいですね。中国という国の歴史だけでもすごく魅力的です。5000年の歴史がありますから。韓国の歴史も魅力的です。日本と遜色ないぐらい魅力的です。ですから，世界史といって，世界全体の歴史を勉強することも大事で

すけど，隣国だから中国の歴史ということに少し興味を持って，中国の歴史を書いた本を二，三冊読むというだけでも相当勉強になりますね。一目置くようになりますね。ぼろくそに中国は嫌いなんて単純に言うことは，しなくなるかもしれない。べた褒めに褒める必要はありませんが，それなりに偉大な民族には違いありませんから，そういう歴史の事実を少しでも勉強されたらどうでしょうかね，お勧めをいたします。

【司　会】
あともう一つぐらい受け付けたいと思います。

【質問者】
貴重なお話をありがとうございました。選挙について質問させていただきたいんですけど，僕が今感じているのが，各政党がゆるキャラをつくったり，車を改造して「痛車」を選挙カーとして使ったり，あとはおしゃれパンフという若者向けのおしゃれなパンフレットで呼びかけをするというようなやり方をしている政党があるみたいです。

僕が思っていた選挙というのは，自分の党のいいところをばんばん打ち出して，それで賛同してもらって票を集めるというイメージだったのが，ずれていっているんじゃないかという印象を持っています。これに関して武村先生が考える本来あるべき選挙のやり方やあり方というものがあれば教えていただきたいと思います。

【武村先生】
選挙は，政党とか人物が競争をするわけですよね。国民に選んでいただく，そういう行事が選挙ですけれども，選挙期間が十何日間とか決まっていますね。その間にどうやって各政党が国民に関心を持ってもらおうかと考えるものだから，今申し上げたようなゆるキャラとか，カラフルなパンフレットとか，そういう道具にも力を入れてしまうと。テレビでもどう発言するか，ゆっくり時間を与えてくれたら落ちついてしゃべるんだけれども，1人30秒とか言われると，ぽんぽんぽんと言うて，何か引きずり落とす表現をつい使ってしまうとか，外観だけで競い合うような形になりやすい。これは本人が悪いというよりも，選挙というものがそうさせてしまっているところがあります。

大事なことは政策です。1にも2も政策が一番大事ですが，自民党の諸君がいつも言うのは，野党はちっとも対案を出さんやんかと。君たちは反対反対ばかり言うて，自民党の案がだめというなら，代わりにこういう案だということをもっと出さんかいと言います。実は，民進党も共産党もいっぱい出しているんです。だけど，私の経験で言うと，自民党が一つの政策を出すと，新聞，テレビが大きく書いてくれるんです。政権を握っているからでっかく報道するんです。ところが，民進党が民進党の安保政策というのを発表しても，新聞はちょこっとしか書かないか，全然書かない。だから，民進党には安保政策がないように誤解してしまうけど，ちゃんと民進党は民進党なりに集団的自衛権はだめだと。だけれども，周辺事

態法をつくる，尖閣列島のもっと自衛隊を強化する，個別的自衛権をもっと強化するとちゃんと言うているんです。それは全然報道されていませんからね。そういうマスコミの扱いの不公平というか，有権者に，平等に公平に各政党が映っていないというところがありますね。難しい問題です。

例えば，安倍さんはしょっちゅう民進党の悪口を言いますが，私は民進党を一言で褒めるとすると，民進党って安倍さんの前に3年余り日本の政権をとっていたんです。鳩山という総理大臣と菅直人という総理大臣，野田佳彦という3人の総理大臣が民主党から出ました。安倍さんに言わすと，あんな民主党の時代はわやくちゃ，めちゃくちゃだった，日本を悪くした，そればかり言うてますからね。安倍さんがあんなに言うと，そうかなとみんな思ってしまうでしょう。民主党といったら，悪口を言うのが当たり前みたいな。

だけど，1つだけいいことをあえて言うと，政治家というのは，政党というのは，国民の嫌がることを時々しなきゃならんのが政党なんです。国民にとってつらいことも言わなきゃならんことがあるんです。民主党が偉かったのは，消費税を5%から10%に上げたことですよ。野田さんのときにね。野党の自民党と公明党を口説いて，説得して，それで政権をとっていた民主党と当時の野党の自民党，公明党も賛成させて，3党で税と社会保障の一体改革という考え方をまとめて，その上で消費税を5%から8%，8%から10%という段階で上げるという法律を通しちゃったんですね。あの法律をつくったのも，国会で通したのも，民主党政権なんですね。それは国民から見ればつらいことだ。これはものすごく褒めてあげていい仕事だと思う。自民党は大体そういうことをしないんですよ，つらいことは。

私は，村山さんという社会党の委員長が総理のときに大蔵大臣をやっていて，消費税を3%から5%に上げたんですよ。つらいことをやらせてもらった。本当はこれが政治なんです。場合によっては人気が落ちるかもしれん，国民から嫌がられていても，日本の将来を考えたら，日本の社会保障のことを考えたら，あるいは財政のことを考えたら，上げるものは上げなきゃいけない。そう国民にお願いしていかなならん。それをやる政党が立派なので，別に民進党に投票してくれとは言いませんよ，自民党より民進党がいいとは言えません。言えませんが，ぼろくそに言うている人がいるから，そうでもないよと一言申し上げておきます。

【司　会】

それではもう時間がきてしまいました。武村先生，本日はお忙しい中，大変貴重なお話をありがとうございました。学生の皆さんにとっても非常に貴重な機会になったと思います。本当にありがとうございました。（了）

平成 28 年度学修支援部門活動報告

部門長　海野 年弘
副部門長　篠田 成郎
副部門長　廣内 大輔

はじめに

学修支援部門は，その下部組織として，初年次教育担当会議とメディア教育担当会議の 2 つを持ち，さらに両者を横断する形で，広報チームとアカデミック・コア運営チームを置いている。よって本稿，まず学修支援部門全体の動向を記した後，これら 4 つのグループがそれぞれの担当業務について記載するものとする。

【学修支援部門全体の動向】

１　会議記録

学修支援部門打合せ

開催日	主な審議議題
４月１４日	①　学修支援部門名簿 ②　学修支援部門の会議等について ③　各担当会議報告 ④　アカデミック・コモンズの運用について ⑤　第３期中期目標・中期計画、年度計画
４月２６日	①　学修支援部門における各担当およびチームの業務について ②　第３期中期目標・中期計画、年度計画に基づいた各担当の活動計画について
５月１０日	①　各担当会議報告 ②　アカデミック・コモンズの運用について ③　次期 Learning Management System の導入について ④　今年度の会議日程について
５月２４日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について
６月７日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について
６月２１日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について
７月５日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について
７月１９日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について
９月１３日	①　各担当会議報告 ②　次期 Learning Management System の導入について ④　平成２８年度計画に対する９月末時点での進捗状況の報告について
１０月１２日	①　各担当会議報告
１１月２日	①　各担当会議報告 ②　FD の開催について
１１月２１日	①　各担当会議報告 ②　FD の開催について ③　総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎに

	ついて
１２月７日	① 各担当会議報告 ② FD の開催について ③ 学修支援部門ホームページについて ④ 総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎについて
１月１１日	① 各担当会議報告 ② FD の開催について ③ 総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎについて
２月８日	① 各担当会議報告 ② 総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎについて
２月２１日	① 各担当会議報告
３月８日	① 各担当会議報告 ② ニューズレターについて ③ 今年度の活動報告及び来年度の検討事項について ④ 年報（平成２８年度学修支援部門活動報告）について ⑤ 平成２８年度計画の進捗状況について

学修支援部門会議

開催日	主な審議議題
４月２７日	① 教育推進・学生支援機構学修支援部門委員の紹介 ② 教育推進・学生支援機構規程および部門細則の確認 ③ 教育推進・学生支援機構学修支援部門における各担当およびチームの業務について ④ 第３期中期目標・中期計画、年度計画に基づいた各担当の活動計画 ⑤ 今年度の部門会議日程（案）について
５月２５日	① 各担当の活動について ② 次期 Learning Management System の導入について
７月２７日	① 各担当の活動について ② 次期 Learning Management System の導入について
９月２８日	① 各担当の活動について ② 平成２８年度計画に対する９月末時点での進捗状況の報告について

１０月２６日	① 各担当の活動について ② 総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎについて ③ 学務情報システムの愛称公募について
１２月２６日	① 各担当の活動について ② FD の開催について ③ 学修支援部門ホームページについて ④ 総合情報メディアセンター改組に伴う，既存の業務の引き継ぎについて
１月２６日	① 学務情報システムの愛称候補への投票結果および選定結果について
２月２２日	① 各担当の活動について ② アクティブ・ラーニングの定義について ③ 学修支援部門ホームページについて ④ ニューズレターの構成について

【初年次教育担当会議】

１　会議記録

初年次教育担当会議

開催日	主な審議議題
４月２７日	①　今年度の活動について ②　初年次セミナーのあり方について ③　業務の役割分担について ④　今年度の会議日程について
５月２５日	①　「学びをデザインする」の実施方法について ②　アクティブ・ラーニングの実態調査に向けて ③　初年次セミナーの授業評価アンケートについて
６月２３日	①　アクティブ・ラーニングの実態調査に向けて ②　「学びをデザインする」の実施方法について
７月２７日	①　平成２８年度図書館ツアーについて ②　アクティブ・ラーニングの実態調査に向けて
９月２８日	①　アクティブ・ラーニングの実態調査に向けて ②　平成２８年度図書館ツアーのアンケート集計結果について
１０月２６日	①　ＳＡ及びＴＡに求められる能力の明確化と育成方法について ②　全学共通教育科目履修案内「初年次セミナー」の原稿について
１１月２２日	①　初年次セミナーの授業評価アンケートの集計結果について ②　全学共通教育科目履修案内「初年次セミナー」の原稿について ③　SA 及び TA に求められる能力の明確化と育成方法について
１２月２６日	①　アクティブ・ラーニングの実態調査について ②　学生レポートコンテストについて ③　平成 29 年度図書館ツアーについて
１月２７日	①　アクティブ・ラーニングの定義について ②　岐阜大学生のためのレポート・論文の書き方について ③　学生レポートコンテストについて ④　平成２９年度図書館ツアーについて
２月２２日	①　岐阜大学学生レポートコンテストについて ②　平成２９年度図書館ツアーについて ③　平成２９年度全学共通教育科目新入生ガイダンスについて ④　アクティブ・ラーニングの定義について
３月３０日	①　岐阜大学学生レポートコンテストについて ②　平成２９年度図書館ツアーについて ③　平成２９年度全学共通教育科目新入生ガイダンスについて

	④　平成２８年度の活動総括

２　活動内容及び成果

・岐阜大学におけるアクティブ・ラーニングの実態把握と定義付及び導入計画について

１）全ての学部、全学共通教育の授業科目について、アクティブ・ラーニングに関する調査を実施した。

２）岐阜大学におけるアクティブ・ラーニングの定義を行い、導入計画を確定した。

・「ひろがる学び、つながる学び」の開講について

前学期に開講し、10 名の学生が履修登録した。

・「学びをデザインする」の開講について

１）初年次セミナーの履修者全員に同科目の PR を行った。

２）受講希望者および関心を示す学生に対して、事前説明会を複数回（4～5 回）実施した。

３）アドバイザー教員の充実化について方策を検討し、全教員への同科目の周知及び依頼を行った。

４）アドバイザー教員が決まった後に、当該教員への授業内容の説明を行った。

５）後学期に開講し、15 名の学生が履修登録した。

６）他大学等における研究報告会で本科目についてポスター発表を行った。

・岐阜大学学生レポートコンテストの実施について

前年度の「岐阜大学学生論文コンテスト」の名称を変更のうえ、応募資格を緩和して作品の募集を行った。応募された６作品を初年次教育担当の全委員で審査し、優秀作品を選定した。

・アカデミック・コアにおける SA 及び TA に求められる能力の明確化と育成方法を決定した。

１）アカデミック・コアの学習支援学生スタッフの新規応募の募集要項に、求められる資質・能力を募集資格に反映し、募集を行った。

２）勤務する学生スタッフを対象にした自己評価アンケート（案）を、アカデミック・コア運営チームと協議・実施した。

・初年次セミナーのあり方について

１）アカデミック・コアを利用した新たな図書館ツアーの企画を実施した。

２）今年度より実施内容を大きく見直した図書館ツアーについて、受講者アンケートを実施し、受講生の反応や今後の改善点を確認した。

３）初年次セミナーの授業評価アンケートを実施した。

４）初年次セミナーにおける成績評価について、各学科の状況を確認した。

５）全学共通教育科目履修案内における「初年次セミナー」の科目紹介文を改訂した。

・『岐阜大学生のためのレポートの書き方』（旧『岐阜大学生のための日本語表現練習ノー

ト』）について、今年度より初年次教育担当会議がその内容を精査することした。編集代表者である教育学部の山田敏弘教授とも協議して原稿を改め、学修支援部門合同会議および教学企画室会議の承認を得て新版を刊行した。

・平成２８年度の活動に関わる年報を作成した。

３　課題及び次年度の取組方針

前年度に定義した「アクティブ・ラーニング志向科目」（アクティブ・ラーニングを促進する科目）を選定し、一層の整備に努める。アクティブ・ラーニング志向科目の選定にあたり、シラバスの項目（文言）の修正を検討する。

「学びをデザインする」を前年度と内容を大きく変えず、継続開講する。

「岐阜大学学生レポートコンテスト」を実施し、応募作品が増えるようにより広く周知を行う。

アカデミック・コアで勤務する SA 及び TA について、他大学の視察、シンポジウム参加などの研修を通じて能力の向上を図る。

【メディア教育担当会議】

１　会議記録

開催日	主な審議議題
４月２７日	①　メディア教育担当におけるこれまでの取り組みと今年度の活動目標に関する協議 ・　メディア教育担当の活動内容・成果および課題の確認 ・　メディア教育担当の今年度の活動目標に関する協議 ・　教育推進・学生支援機構年報の原稿内容の協議 ②　AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・　平成 27 年度後期 AIMS 活用効果アンケート分析結果と考察内容の確認 ・　取り纏め方に関する協議 ③　LMS のあり方に関する協議 ・　AIMS-Gifu の効果に関する意見交換 ・　AIMS-Gifu の更新方針に関する協議 ④　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称公募に係る作業内容の確認 ・　学務情報システムによる各種の学習問合せ窓口一覧の掲示内容に

	関する協議
５月２５日	① LMS のあり方に関する協議 ・ 総合情報メディアセンターでの検討状況の報告 ・ 現行 AIMS の課題と次期 AIMS での追加機能に関する協議 ・ 今後のスケジュールの確認 ② AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・ 平成 27 年度後期 AIMS 活用効果アンケート分析・考察の取り纏め方に関する協議 ・ 今年度の分析・検証方針に関する協議 ③ 学生への各種情報提供方法に関する協議 ・ 学務情報システムの愛称公募に係る作業スケジュールに関する協議 ・ 学務情報システムによる各種の学習問合せ窓口一覧の掲示内容に関する確認
６月２２日	① 次期 AIMS に関する協議 ・ 総合情報メディアセンターでの検討状況の報告 ・ 次期 AIMS に係る準備内容の協議 ② AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・ 平成 27 年度後期 AIMS 活用効果アンケート分析結果に関する協力教員へのヒアリング方法の確認 ・ レポート取り纏め方針に関する協議 ③ 学生への各種情報提供方法に関する協議 ・ 学務情報システムの愛称公募に係る作業スケジュールの確認
７月２７日	① 次期 AIMS に関する協議 ・ 各学部からの意見・要望の報告とその取り纏め案に関する協議 ・ 次期 AIMS に係る準備スケジュールに関する協議 ② AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・ 平成 27 年度後期 AIMS 活用効果アンケート分析結果に関する協力教員へのヒアリング結果の確認 ・ レポート取り纏め方針に関する協議 ③ 学生への各種情報提供方法に関する協議 ・ 学務情報システムの愛称公募に係る作業の確認
９月２８日	① 次期 AIMS に関する協議 ・ 次期 AIMS に関する意向回答に関する報告 ・ 次期 AIMS に係る準備スケジュールに関する協議 ② AIMS 効果分析・検証に関する協議

	・　平成27年度後期AIMS活用効果アンケート分析結果に関する協力教員へのヒアリング結果の確認 ・　レポート取り纏め案に関する協議 ③　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称公募方法の確認 ・　学務情報システムの愛称公募に係る作業スケジュールの再検討 ④　AIMSコンテンツの公開についての意見交換
１０月２６日	①　次期AIMSに関する協議 ・　次期AIMS導入に関する状況の報告 ②　AIMS効果分析・検証に関する協議 ・　平成27年度後期AIMS活用効果アンケート分析結果に関する協力教員へのヒアリング結果の確認 ・　考察内容およびレポート取り纏め案に関する協議 ③　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称に係る作業スケジュールの確認 ・　学務情報システムの愛称公募に係る作業分担の割り当て ④　アクティブラーニングを支援するICT活用策の検討方針に関する意見交換 ⑤　AIMSコンテンツの公開について
１１月３０日	①　総合情報メディアセンター廃止に伴う次年度からのメディア教育担当の役割に関する協議 ・　これまでの状況の報告 ・　次年度からのメディア教育担当の業務内容等に関する協議 ②　次期AIMSに関する協議 ・　次期AIMS導入に関する状況の報告 ・　Canvasの試用に関する協議 ③　AIMS効果分析・検証に関する協議 ・　考察案に関する協議 ・　レポート取り纏め方針案に関する協議 ④　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称候補の選定 ・　学務情報システムの愛称候補に対する投票・集計等作業の確認 ⑤　アクティブラーニングを支援するICT活用策の検討方針に関する意見交換
１２月２６日	①　総合情報メディアセンター廃止に伴う次年度からのメディア教育担当の役割に関する報告

	・　これまでの状況の報告 ・　次年度からのメディア教育担当の業務内容等に関する報告 ②　次期 AIMS に関する報告 ・　次期 AIMS 導入に関する状況の報告 ・　Canvas の試用に関する協力依頼 ③　AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・　考察案に関する協議 ・　レポート取り纏め方針案に関する協議 ④　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称候補への投票状況の報告 ・　学務情報システムの愛称と佳作の決定作業手順に関する確認 ⑤　アクティブラーニングを支援する ICT 活用策の検討方針に関する協議 ・　今年度の具体的検討対象の決定 ・　今年度の取り組み成果のまとめ方に関する協議
１月２５日	①　次期 AIMS に関する報告 ・　次期 AIMS 導入に関する状況の報告 ・　Canvas 勉強会の実施結果に関する報告 ②　AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・　追加の分析結果とその考察に関する協議 ・　レポート取り纏め方針に関する協議 ③　学生への各種情報提供方法に関する協議 ・　学務情報システムの愛称候補への投票結果の確認 ・　学務情報システムの愛称と佳作に関する選考案の協議 ④　アクティブラーニングを支援する ICT 活用策の検討方針に関する協議 ・　今年度の具体的成果に関する報告 ・　今年度の取り組み成果のまとめ案に関する協議
２月２２日	①　次期 AIMS に関する協議 ・　次期 AIMS の調達結果に関する報告 ・　次期 AIMS への移行作業内容に関する協議 ・　次期 AIMS におけるコミュニティの運用に関する協議 ・　次期 AIMS と学務情報システム（Campus-G）の役割明確化に関する協議 ②　学務情報システム（Campus-G）に関する協議 ・　学務情報システムの運用方針に関する協議 ・　学務情報システムの運用方針変更スケジュールに関する協議 ③　AIMS 効果分析・検証に関する協議

	・　レポート取り纏め案に関する協議 ・　レポート公表スケジュールに関する協議 ④　アクティブラーニングを支援する ICT 活用策の検討方針に関する協議 ・　今年度の取り組み成果のまとめ案の確認
３月２２日	①　次期 AIMS および学務情報システム（Campus-G）に関する確認 ・　教学委員会への報告結果について ②　AIMS 効果分析・検証に関する協議 ・　レポート取り纏め内容の確認 ・　レポート公表方法とスケジュールに関する協議

２　活動内容および成果

1) 本学における LMS（Learning Management System）のあり方と次期 AIMS-Gifu の更新に関する検討

これまでBlackboardLearnを本学のLMSとして利用してきたが，平成29年度の岐阜大学キャンパス基幹情報システムの更新に併せて，毎学期末に実施してきた利用者アンケート結果に基づき，必要な機能などについて検討した．また，全学を対象とした意見聴取を併せて実施し，現行AIMS-Gifu（BlackboardLearn）における課題や次期AIMS-Gifuに求められる要件について整理した．その結果，現行AIMS-Gifuでは必要な機能が提供されているものの，利用に慣れていない教員にとってのハードルが高く，よりシンプルな機能提供や学習効果向上・教員負担軽減を促すテンプレートの提供などが必要になっていることが明らかになった．また，可読性・汎用性の高いデータ保持形式を確保することによりベンダーロックを防ぐとともに，LMS周辺ソフトウェアへの依存度が低く，安定的・継続的なバージョンアップを図れるシステムが望ましいことも指摘された．こうした検討に基づき，次期AIMS-GifuにふさわしいLMSについて，オープンソース系のMoodle，SAKAIおよびCanvasを比較検討したところ，アプリケーション実装の透明性が高く，世界的に導入が加速度的に進行しつつあるCanvasの優位性が高いことが明らかになった．

2) AIMS-Gifu の活用効果に関する分析・検証

平成26年度後期および平成27年度後期に実施した授業時間外学習におけるAIMS-Gifuの効果に関するアンケート調査の結果を分析した．その結果，AIMS-Gifuの活用により，授業時間外での学習機会が増え，授業に対する興味・学習意欲・理解度・学習効率が高くなることが明らかになった．とくに，自宅学習習慣の無い学生にとって，AIMS-Gifu活用は学習時間増大に大きく寄与することも示された．また，AIMS-Gifuを活用している授業では，その担当教員が効果的な授業設計を心がけているケースが大多数であり，上記の効果がAIMS-Gifu活用と効率的授業設計のいずれによるものであるのかを区別することは難しいものの，授業設計の中でAIMS-Gifuの活用を組み込むことの有効性は示されたと判断できた．なお，これらの一連の検討結果については，教育推進・学生支援機構のホームページにレポートとして掲載するとともに，同機構年報に学術論文として投稿する予定である．

3) 学務情報システムと AIMS-Gifu の位置付けに関する整理

学生に対する大学からの各種アナウンスや学生が種々の問合せをする際の窓口として，現在は学務情報システム，AIMS-Gifuおよび各部局のホームページなどが用いられている．しかし，学生のみならず，教職員にとってもその所在は明らかではなく，大学として統一的な情報発信が望まれている．上記のAIMS-Gifu更新に併せて，こうした情報発

信の方策を再検討した結果，AIMS-Gifuは原則として授業に関する情報のやり取り（教員と学生との双方向の情報のやり取り）を行うシステムと定義し，一方，学務情報システムは学務系アナウンスなどの大学から学生への一方向の情報提供に特化させる方針を提案した．また，学務情報システムとAIMS-Gifuとの違いを認識できていない学生が多く存在することから，学務情報システムの愛称を新たに設ける必要性についても検討した．これに基づき，学務情報システムの愛称を公募し，これを「Campus-G」とすることにした．こうした一連の結果について，キャンパス基幹情報システムの更新と併せて，平成29年度後期より反映させ，新たなサービスを提供することとした．

4) アクティブラーニングを支援する ICT 活用策の検討

学生が個人またはグループで自発的に課題を見つけこれに取り組む際に有効となるICTの活用策を具体的に検討・提示するため，電子黒板（プロジェクター付インタラクティブホワイトボードなど），タブレット，スマートフォンなどの効果的かつ具体的な活用例をまとめた．とくに，アカデミック・コアで提供されている各種ICT機器の利用例や利用者の声を紹介することにより，アクティブラーニングを支援することができた．

5) 総合情報メディアセンター廃止に伴うメディア教育担当の役割に関する検討

平成28年度末を以て廃止された総合情報メディアセンターでの学修支援部門と連携した業務について見直し，平成29年度以降の同部門メディア教育担当のミッションを以下のように再定義した．

(a) AIMS-Gifuの運用および利用支援とその効果的利用の促進
(b) AIMS-Gifu，学務情報システムなどの各種教育情報システムの統括
(c) ICT機器類の効果的な教育利用の促進

３ 課題および次年度の取り組み方針

1) 新 AIMS-Gifu への円滑な移行

平成29年9月に更新されるAIMS-Gifu（CanvasLMS）について，円滑な移行を実現するため，運用体制・支援体制を整備するとともに，各種マニュアル類の作成・提供や利用者教育を実施する．また，現行AIMS-Gifuでのコミュニティを整理し，学生との教育に関わる情報やりとりに特化した運用に変更する．

2) 学務情報システム（Campus-G）のリニューアル

平成29年9月のAIMS-Gifu更新と併せて，現行AIMS-Gifu内のコミュニティやサービスの内，大学から学生への情報提供に関する部分を学務情報システムに移行するとともに，

各種アナウンスを学務情報システムから発信できるようにリニューアルする.

【広報チーム】

１　会議記録

広報チーム会議

開催日	主な審議議題
６月１日	①　広報チーム担当者（紹介） ②　広報チームの担当内容・方針について ③　部門ホームページの充実化について ④　ニューズレターの発行について ⑤　今年度の会議日程
６月２９日	①　ニューズレターの構成について ②　部門ホームページの充実化について
７月２６日	①　ニューズレターの構成について
９月２８日	①　ニューズレターの構成について
１１月２日	①　ホームページの充実化について
２月２日	①　ニューズレターの構成について ②　ホームページの充実化について

２　活動内容及び成果

広報チームでは、学修支援部門の活動や岐阜大学の学生のアクティブ・ラーニングを促す取組み、学習に有用な情報を学内外に発信することで、教育の活性化をはかることを活動目的とした。主に学修支援部門ニューズレターの発行と学修支援部門ホームページの充実化・改善に取り組んだ。

今年度、広報チームでは学修支援部門ニューズレターを年 2 回発行した。創刊号（平成 28 年 10 月 1 日発行）では、アカデミック・コアの利用学生への取材内容、第 2 号（平成 29 年 3 月 15 日発行）では、全学共通科目「学びをデザインする」の受講者への取材内容を掲載した。

学修支援部門ホームページに関しては、既存の構成や見出しを利用者の視点から見直し、改善を行なった。また、学修支援部門ニューズレターや FD の資料等の掲載や情報更新をすることで内容の充実化にも取り組んだ。

また、アカデミック・コア、AIMS-Gifu、学務情報システムの 3 つの活用を新入生に周知させるために、学生の協力のもと、学修支援部門リーフレットの発行を企画し、ラフスケッチの構成を確認・修正・制作した。リーフレットは平成 29 年 4 月に発行し、新入生に配布する予定である。

３　課題及び次年度の取組方針

次年度も引き続き、学修支援部門ニューズレターの発行やホームページの充実化を通じ

て、学修支援部門の活動を広く発信していく。また、学修支援部門リーフレットは、AIMS-Gifu の新システムへの移行に伴い、構成や内容を見直し修正を図る。

【アカデミック・コア運営チーム】

1　会議記録

アカデミック・コア運営チーム会議

開催日	主な審議議題
５月１７日	①　アカデミック・コア運営チーム担当者について ②　平成 28 年度学修支援部門活動計画におけるアカデミック・コア運営チーム担当内容について ③　今年度の定例会日程について
６月１０日	①　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況 ②　アカデミック・コア予算について ③　学生スタッフの活動について
７月８日	①　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況 ②　学生スタッフの活動について ③　学生スタッフの募集について ④　外部講師によるアカデミック・コアイベントの実施について
８月８日	①　学生スタッフの募集について ②　学内ワークスタディ対象者の学生スタッフの募集について
１０月２１日	①　学生スタッフについて ②　アカデミック・コア予算見込みについて ③　アカデミック・コア学生スタッフの他大学視察について ④　FD の実施について ⑤　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況 ⑥　後学期のアカデミック・コア運営チーム定例会実施予定について
１１月１８日	①　学生スタッフの活動について ②　FD の実施について ③　中期計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ④　平成 28 年度計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ⑤　アカデミック・コアパンフレットの制作について ⑥　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況 ⑦　アカデミック・コア予算執行状況について
１２月１６日	①　学生スタッフの活動について ②　アカデミック・コア FD・SD 研修会の実施について ③　他大学のラーニングコモンズの視察について ④　中期計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ⑤　平成 28 年度計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法に

	ついて ⑥　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況
１月２０日	①　平成 29 年 4 月採用のアカデミック・コア学生スタッフ募集について ②　中期計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ③　平成 28 年度計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ④　イベント等での「アカデミック・コア利用ガイドライン」について ⑤　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況
２月１７日	①　平成 29 年 4 月採用のアカデミック・コア学生スタッフ募集について ②　中期計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ③　平成 28 年度計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ④　アカデミック・コアイベント利用ガイドラインについて ⑤　アカデミック・コア FD・SD 実施結果について ⑥　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況
３月１７日	①　平成 29 年 4 月採用のアカデミック・コア学生スタッフ募集について ②　中期計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ③　平成 28 年度計画におけるアカデミック・コア運営チームの評価方法について ④　アカデミック・コア利用者状況とイベント実施状況

２　活動内容及び成果

アカデミック・コアで勤務する学生スタッフの募集を平成 28 年 10 月期と平成 29 年 4 月期の 2 回実施した。平成 28 年 10 月期には応募者 18 名に対して選考面接を行い，継続・新規を含め 9 名の学生をスタッフとして採用した。また，平成 29 年 4 月期には応募者 8 名に対して選考面接を行い，7 名を新規に採用した。なお，10 月期へのスタッフ引き継ぎに際し，学生スタッフ業務引き継ぎマニュアルを作成した。

4 月より 7 月にかけて，初年次セミナーとして図書館ツアーを企画し，実施対応した。

AIMS の利用に関するアンケート作成・実施・集計を行った。また，これらの作業を効率化するための表計算ソフトウエアによる自動化マクロを開発した。

学生スタッフの研修と他大学のラーニング・スペースの取組みを学ぶために，平成 28 年 10 月に名古屋大学附属図書館ラーニング・コモンズを，11 月に金城学院大学ラーニング・コモンズを視察した。両大学のラーニング・スペースの運用方法，イベントの企画，実施状況を見聞したことで，学生スタッフの意識向上のみならず，アカデミック・コアでの図書コーナー設置など新しい取組みを始めた。

学生スタッフには，アカデミック・コアでの学習支援サービスに加えて，アカデミック・

コアで使用できる電子機器（プロジェクターを搭載した電子ホワイトボード，iPad，無線LAN 環境など）の活用方法やマニュアル作成を行った。さらに，情報機器の管理台帳を作成し，アカデミック・コアにおける ICT 機器の洗い出しを行った。

平成 29 年 1 月 20 日（金）に，「学習支援空間としてのラーニングコモンズ」とのテーマで，アカデミック・コア FD・SD を開催し，学内外から 43 名の参加があった。FD・SD では，本学のアカデミック・コアのスタッフの立木はる菜氏によるアカデミック・コアの概要と開設から一年半の軌跡についての報告，千葉大学のアカデミック・リンク・センターの特任助教：姉川雄大氏による講演，学生スタッフによる他大学視察の報告を行った。

学内外からイベントでアカデミック・コアを使用したいとの要望が増えており，岐阜大学生の学びのためのスペースという性質から使用を認めるべきか否か，その都度学修支援部門で協議を行うなどの対応をしている。スタッフによる判断が容易にできるように，イベント実施に関する利用ガイドラインを策定し，使用基準の整備を行った。

この他，学生スタッフによる活動内容として，英語能力・プレゼンテーション能力を促進するための TED トーク動画の選定および大型テレビによる上映，英語学習を促進するための「一問一答」の作成，グループ学習室の利用者集計，スタッフブログの作成及び公開，カウンターにおける学生相談など，多種多様な業務内容を企画・実行した。そして，学生スタッフミーティングを開催し，学生スタッフ間での反省を踏まえて次の業務に反映させることで，学生スタッフ業務における PDCA サイクルの確立と学生自身の主体的学修を促進できた活動内容であった。

こうした学生スタッフの主体的学修の向上の度合いを測るため，2017 年 3 月に学生スタッフを対象に「アカデミック・コア学生スタッフの自主性に関する調査」をアンケート調査として実施した。この結果，「能動的な学習」「ICT 機器利活用」「企画・運営」といったカテゴリのほぼすべてで半数以上「向上した」といったポジティブな結果が得られた。反面，他の学生への助言といった，他の学生への学習支援においてはややネガティブな結果が得られた。

３　課題及び次年度の取組方針

先のアンケート結果をも考慮した上で，アカデミック・コアで勤務する学生スタッフの指導について，他学生への指導が可能になるような体制をより整備する必要がある。業務の内容を複数かつ多様な教員で定期的に確認し，指導・助言を行うための体制が求められる。

イベント実施に関する利用ガイドラインは必要最小限の基準を設けた暫定的なもので，アカデミック・コアを運用していく中で，見直し・修正を適宜検討していく。

アカデミック・コアを今後もより良くしていくために，他大学の取組みを紹介したり，本学での活動内容を学生・教職員に広く知ってもらう機会が必要である。アカデミック・コアでの FD や，学生スタッフの研修を次年度も計画・実施する予定である。

平成 28 年度学生生活支援部門活動報告

部門長　熊谷 佳代

１．会議等の記録

部門の会議は表 1 に示すように 4 回開催した。

表 1　学生生活支援部門会議

開催日	主な審議議題
4 月 27 日	サポートルームの活動状況について 体育施設の細則の改正について
6 月 24 日	課外活動支援事業について サポートルームの活動状況について
2 月 14 日 （メール審議）	理事（教学担当）表彰について サポートルームの活動状況について
3 月 8 日	平成 29 年度学生団体設立承認について サポートルームの活動状況について いこまいセミナーについて

２．活動内容及び成果

（1）課外活動支援

学生の課外活動に対して，成員数や成績等の実績を勘案して経費を配分し，活動の支援を行った。

（2）学生表彰

今年度優秀な成績を修めた個人や団体にも，教学担当理事表彰を行い，学生の課外活動の活性化を図った。

（3）障害学生支援

障害学生支援室はより幅広く多様なニーズのある学生への対応を可能にし、相談しやすい機関とすることを目指して「サポートルーム」の通称を用いて業務を実施することとした。また、サポートルーム運営会議を発足し，3 回の運営会議を開催した。

学生の修学支援に関して，年間対応件数は昨年度に比べ 3 倍近く増加し、1000 件近くになっている。このまま増加すれば専任教員 1 人では対応しきれない状況になる。学内にお

けるFD・SDを計8回開催した。第1回を4月に山口大学の木谷秀勝氏を招いて「高機能ASD大学生に対する就労を視野に入れた支援の試み」というテーマで開催した。第2回を7月に工学部教授会にて「心臓ペースメーカーへの電磁波による影響に関して」というテーマで保健管理センター・メドトロニックス社との共催で開催した。第3回を7月に地域科学部教授会にて「障碍者差別解消法と障害のある学生へのサポート」というテーマで開催した。第4回を11月に全学部・研究科学務係を対象に「支援フロー説明会」を開催した。第5回を1月に部局長・部長会にて「岐阜大学における障害学生支援の現状と今後について」というテーマで保健管理センターの堀田先生との共催で開催した。第6回を1月に工学部化学・生命工学科物質科学コース教授を対象に「心臓ペースメーカーの植え込みをしている学生への合理的配慮に関する懇談会」を山本保健管理センター長と開催した。第7回を教育学部教授会にて「合理的配慮の実施に至るまでの手続きについて」というテーマで開催した。第8回を3月に人材開発部職員育成課主催で「障害者差別の解消の推進に関する研修会」を開催した。広報と啓発活動に関して，web サイトの立ち上げを行い，ガイドブックを作成し全教職員に配布した。さらに，ポスターを作成し学内に掲示した。

平成28年10月22日～27日の日程で、「全国高等教育障害学生支援協議会」と「マサチューセッツ州立大学ボストン校地域インクルージョン研究所」が実施した『日本の高等教育における障害学生支援に係るリーダー育成研修』に、全国から3大学が選出され、本部門内から舩越高樹特任助教（障害学生支援担当）、堀田亮助教（保健管理センター臨床心理士）が参加し、世界標準の障害学生支援に関する知見を得ることができた。研修の成果はアクションプランとしてまとめられ、米国側スタッフの助言を継続的に受けつつ、本学および近隣内各大学の障害学生支援の拡充に貢献し始めている。

（4）学生生活支援

学内の盗難が多発していることを受け，学内の各所（特に体育施設）に貴重品管理の徹底を周知させる掲示をした。

３．課題及び次年度の取組方針

課外活動支援および学生表彰をはじめとした学生生活の支援は，更なる活性化を期待し，今年度の方針に倣って取り組む。

障害学生支援については，入学試験における合理的配慮の内容に関する検討や長期履修制度の導入に関する検討を行い，さらに就労支援についても関連部局と連携を図りながら取り組む。修学支援に関する対応件数の増加が今後も予想されることから，各学部の学務担当者や関係教員と連携しながら支援の強化を図る。また、障害のある学生の就労支援に関しても、地域関連機関と連携した支援ネットワークの構築を目指し、取り組みを具体化させていく。

平成 28 年度地域教育連携部門活動報告

部門長　竹内　章郎

１．会議等の記録

地域教育連携部門は，地域教育機関との連携を推進すべく，大学間単位互換授業を含むネットワーク大学コンソーシアムの運営及び事業の実施に関すること，サテライトキャンパスの運営及び事業の実施に関する業務を実施した。

本報告においては，部門会議に関わる事項に加えて岐阜大学が事務局を担うネットワーク大学コンソーシアム岐阜の会議，事業を報告する.

（１）部門会議等の記録

表１に地域教育連携部門会議の開催日と審議事項を示す.

表１　地域教育連携部門会議

開催日	主な審議議題
６月２日	（１）平成２７年度サテライトキャンパス決算について（資料６－１、６－２） （２）平成２８年度サテライトキャンパス予算について（資料７） （３）サテライトキャンパスの利用方針について（資料８－１～８－４） （４）サテライトキャンパスの今後の活動について（資料９）

（２）ネットワーク大学コンソーシアム会議等の記録

表２にネットワーク大学コンソーシアム岐阜の主な会議の開催日と審議事項及びイベント事業について示す.

表２　ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の主な会議

開催日	主な審議議題，イベント事業
4 月 19 日	平成２８年度第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教員免許状更新講習部会 （１）平成２７年度岐阜県教員免許状更新講習選択講習分配金の決算について （２）必修及び選択必修分科会の設置について （３）平成２８年度必修領域講習等の講師について （４）平成２８年度岐阜県教員免許状更新講習「受講案内」（案）について

	（５）教員免許状更新講習システムの改修について
4 月 25 日	平成２８年度ネットワーク大学コンソーシアム岐阜第１回地域連携・産学連携部会 （１）平成２８年度事業計画について
5 月 16 日	平成２８年度第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜幹事会（メール会議） （１）平成２７年度事業報告・決算（案）について （２）平成２８年度負担金（案）について
5 月 20 日	平成２８年度第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜運営協議会 （１）平成２７年度事業報告・決算（案）について （２）平成２８年度負担金請求額（案）について （３）平成２９年度以降の副代表・監事・部会長について （４）GUC ビジョン 2016 について
5 月 20 日	平成２８年度第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜高大連携・情報発信部会 （１）平成２８年度高大連携・情報発信部会事業計画案について
6 月 22 日	平成２８年第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教員免許状更新講習部会講習運営分科会 （１）平成２８年度岐阜県教員免許状更新講習における追加講習の開設について （２）平成２８年度岐阜県教員免許状更新講習における開設費用について （３）講習担当者の手引きについて
9 月 10 日～11 日	第１３回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 会場：エリザベト音楽大学及び広島国際大学広島キャンパス １．基調講演「広島県における人材育成について～ひろしま未来チャレンジビジョン～」 ２．シンポジウム「大学間連携によるグローバル人材育成」 ３．文教行政報告「高等教育政策の動向について」 ４．分科会 第一分科会「社会で真に通用する「グローバル人材」の育成法と課題」 第二分科会「大学を取り巻く環境の変化に対応する大学連携による FD・SD のあり方を探る」 第三分科会「地域連携事業の現状と今後のあり方」 第四分科会「留学生に対する就職支援・キャリア支援」
9 月 12 日	平成２８年度第２回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜高大連携・情報発信部会 （１）平成２８年度高大連携セミナー実施内容案について
9 月 16 日	平成２８年第２回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教員免許状更新講習部会講習運営分科会 （１）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習開催スケジュール（素案）について （２）岐阜県教員免許状更新講習における平成２９年度以降の優先予約期間の取扱いについて

	（３）岐阜県教員免許状更新講習における平成２９年度以降の受講キャンセルの取扱いについて （４）岐阜県教員免許状更新講習システムにおける平成２８年度後期のシステム改修について
11 月 30 日	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜平成２８年度第１回企画調整会議 （１）部会からの報告及び事業計画（素案）について （２）全国大学コンソーシアム協議会総会及び研究交流フォーラムについて （３）平成２９年度予算及び負担金（素案）について （４）パンフレット２０１７について （５）次期将来ビジョンについて
12 月 2 日	平成２８年度第１回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教育連携推進部会 （１）平成２９年度単位互換科目の開講予定調査について （２）平成２９年度共同プログラム（学生対象）の企画について （３）平成２９年度共同プログラム（教職員対象）の企画について （４）平成２９年度共同プログラム（一般対象）の企画について （５）平成２９年度公開講座の企画について （６）ＧＵＣ申込フォーム運用マニュアルの改訂について
12 月 9 日	平成２８年度第３回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜高大連携・情報発信部会 （１）平成２８年度高大連携セミナーの実施にあたって （２）平成２９年度の事業計画案について
12 月 14 日	平成２８年度第３回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教員免許状更新講習部会講習運営分科会 （１）平成２８年度岐阜県教員免許状更新講習選択科目分配金について （２）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習必修講習及び選択必修講習の開催スケジュールについて （３）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習必修講習及び選択必修講習の講師について （４）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習における優先予約対象者について （５）受講案内票における「受講証明」欄の取扱いについて （６）岐阜県教員免許状更新講習平成２９年度募集要項について
12 月 24 日	学生による地域課題解決提案事業成果報告会 会場：岐阜大学サテライトキャンパス １．開会あいさつ、審査員紹介、発表方法・審査基準説明 ２．成果報告 ３．グループ懇談会 ４．審査結果の発表、審査員の講評、閉会の挨拶
2 月 3 日	平成２８年度第２回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教員免許状更新講習部会

	（1）教員免許状更新講習に関する協定書について （2）岐阜県教員免許状更新講習システム利用規約及び申込規約の改定について （3）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習の開催等日程について （4）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習の選択講習開催について （5）必修講習及び選択必修講習ガイドラインについて （6）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習必修講習及び選択必修講習の開催日程について （7）平成２９年度岐阜県教員免許状更新講習必修講習及び選択必修講習の担当講師について
2 月 6 日	平成２８年度高大連携セミナー 会場：中部学院大学各務原キャンパス １．開会式 ２．講演会「障害者差別解消法を踏まえた生徒・学生への支援」 （信州大学 教育学部　高橋知音教授） ３．グループワーク ４．報告・閉会式
2 月 9 日	平成２８年度第２回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜教育連携推進部会 （1）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜単位互換事業ガイドラインの改正について （2）平成２９年度単位互換科目の開講について （3）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜受講料要綱の改正について （4）平成２９年度共同プログラム（学生対象）について （5）平成２９年度共同プログラム（教職員対象）について （6）平成２９年度共同プログラム（一般対象）について （7）平成２９年度公開講座について （8）ＧＵＣ申込フォーム運用マニュアルの改訂について
2 月 23 日	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜平成２８年度第２回企画調整会議 （1）部会からの報告及び事業計画（案）について （2）平成２９年度予算及び負担金（案）について （3）パンフレット２０１７（案）について （4）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜が保有する個人情報の管理について （5）ネットワーク大学コンソーシアム将来ビジョン 2019（仮称）（原案）について
3 月 13 日	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜平成２８年度第２回幹事会 （1）平成２９年度役員（案）について （2）平成２９年度事業計画（案）について （3）平成２９年度予算（案）及び参加校負担金（案）について （4）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜が保有する個人情報の管理について

	（５）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜将来ビジョン２０１９（仮称）（原案）について
3 月 31 日	平成２８年度第２回ネットワーク大学コンソーシアム岐阜運営協議会（メール会議） （１）平成２９年度役員等（案）について （２）平成２９年度事業計画（案）について （３）平成２９年度予算（案）について （４）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜における個人情報の管理について （５）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 将来ビジョン２０１９（仮称）（原案）について

２．活動内容及び成果

（１）サテライトキャンパスの運営及び事業

ａ）利用目的：授業

前学期　岐阜大学開講科目 5 科目　履修者数 118 名　延べ履修者数 2,000 名

後学期　岐阜大学開講科目 7 科目　履修者数 213 名　延べ履修者数 2,182 名

早朝クラスの開始

朝の時間帯における岐阜駅から岐阜大学へ向かうバスの混雑緩和を目的として、新たに「早朝クラス」を開始した。これは、一部の授業を 8:00 からサテライトキャンパスで開講することにより、柳戸キャンパスで行われる 2 限目の授業に学生が余裕を持って向かえるようにしたものである。平成 28 年度は、下記の授業を早朝クラスとして開講した。

前学期	岐阜大学の教育研究と運営（月曜日）	履修者数 26 名
	知的財産権法　知的財産権法入門（火曜日）	履修者数 22 名
	ひろがる学び、つながる学び（火曜日）	履修者数 9 名
	科学論入門：近代的自然観と自然科学（水曜日）	履修者数 50 名
後学期	教養の数学 コンピュータのための数学概論（月曜日）	履修者数 9 名
	教育論　岐阜大学の歴史と高等教育論（水曜日）	履修者数 10 名

ｂ）利用目的：講演会、会議等

前学期　309 件　延べ利用者数 6,419 名

後学期　388 件　延べ利用者数 8,061 名

公開講座「アカデミッククラブ」の開始

一般市民への啓発や生涯学習活動の推進を目的として、新たに公開講座「アカデミッククラブ」を開始した。これは、岐阜大学名誉教授等を講師とした講座であり、平成 28 年度は 21 講座全 174 回を開催し、延べ 2,578 名の方が参加した。

ｃ）その他

サテライトキャンパスの知名度を高め、利用する者を増加させるため、新たにサテライトキャンパス見学会を開催した。

学内者向け　8 月 28 日　　一般向け　　1 月 12 日

利用者の利便性向上のため、JR 岐阜駅及び名鉄岐阜駅からサテライトキャンパスまでの道案内動画を日本語及び英語で作成し、ホームページへ公表した。この活動により、サテライトキャンパスの効果的な利用を一層促す素晴らしい試みとして、理事（国際・広報担当）からサテライトキャンパス事務室へ感謝状が贈呈された。

道案内動画 URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~gifu_sc/src/access.html

（２）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の事業

ａ）教育連携推進事業

■単位互換授業及び社会人公開授業

①目的

. 学生の学習機会の多様化（人材育成・教育機能の充実）
・ 地域への生涯学習機会の提供
・ 既存授業の社会人への開放

②履修者数等

	提供科目数（科目）	受講科目数（科目）	履修者数（人）
単位互換授業	110	10	77
社会人公開授業	29	21	53

■共同プログラム

①目的

・ 社会人・高校生への学習機会の提供
・ 学生と社会人・高校生が協働して学ぶことができる場の提供
・ 社会人・学生の人材育成等の学習機会の提供

②プログラム名称

・ 学生向け：「岐阜・風景映画」プロジェクト
・ 一般向け：障害のある児童・生徒の支援と相談
・ 教職員向け：人材育成プログラム

③受講者数

	講座回数	総受講者

	（回）	数（人）	社会人	高校生	学生
学生向け	4	21	0	0	21(21)
一般向け	9	323	323(13)	0	0
教職員向け	5	123	123(123)	0	0

（注）（　）は、コンソーシアム加盟機関に所属する者を内数で示す。

■公開講座

①目的

・　社会人・高校生への学習機会の提供

・　地域への生涯学習機会の提供

②プログラム名称

・　岐阜を知ろう　もっと識ろう

・　落語を笑遊するⅡ　～噺の周辺～

③受講者数

	講座回数（回）	総受講者数（人）			
			社会人	高校生	学生
岐阜を知ろう	12	596	596	0	0
落語を笑遊するⅡ	15	632	632	0	0

ｂ）高大連携・情報発信事業

①目的

・　大学に対する高校生の理解の促進

・　大学における高度な教育・研究に触れる機会や学部選択に関する情報の提供、高等教育機関と高校との連携

②実績

高大連携セミナーの実施

・開催月日：平成 29 年 2 月 6 日（月）

・会場：中部学院大学各務原キャンパス

・当日参加者：70 名（高校関係者 29 名、大学関係者 41 名）

・内容：１．講演会「障害者差別解消法を踏まえた生徒・学生への支援」

（講師：信州大学教育学部　高橋知音教授）

２．３グループに分かれてグループワーク

ｃ）地域連携・産学連携事業

①目的

・　地域貢献
・　教育・研究の充実
②実績
学生による地域課題解決提案事業
・10 機関から 14 件の応募があり 14 件を採択
・成果報告会の開催
開催月日：平成 28 年 12 月 24 日（土）
会場：岐阜大学サテライトキャンパス
当日参加者：115 名（学生 77 名、教員 31 名、その他 7 名）
内容：１．プレゼンテーション 14 件（発表 20 分・質疑 2 団体ごと 5 分）
　　２．10 グループに分かれてグループ懇談会（40 分）
表彰：第一会場　第１位　朝日大学（法学部生による自主防犯ボランティア団体「めぐる」）
　　第２位　岐阜県立看護大学（卒業研究（東白川村）グループ）
　　第二会場　第１位　中部学院大学短期大学部（幼児教育学科２年有川ゼミ）
　　第２位　中日本自動車短期大学（高橋陽二ゼミ）

ｄ）教員免許状更新講習事業
①目的
・　小・中・高等学校等教育免許状更新講習の調整・実施
②実施期間
夏季：平成 28 年 6 月 18 日から 8 月 29 日
秋季：平成 28 年 10 月 15 日から 12 月 3 日
③講習開催実績
１．必修領域（1 講習 6 時間）
講習開設数：19 講習
講習実施機関：岐阜大学
受講者数：1,734 名
２．選択必修講習（1 講習 6 時間）
講習開設数：21 講習
講習実施機関：岐阜大学
受講者数：1,706 名
３．選択領域（一部を除き 1 講習 6 時間）
講習開設数：343 講習
講習実施機関：朝日大学、岐阜大学、岐阜経済大学、岐阜県立看護大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、東海学院大学、大垣女子短期大学、岐阜聖徳学園大学短期大学部、東海学院大学短期大学部、中部学院大学短期大学部、中京学院大学短

期大学部、高山自動車短期大学、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会
（以上 7 大学、6 短期大学（部）、2 教育委員会）

受講者数：5,211 名

３．課題及び次年度の取組方針

（１）サテライトキャンパスについて

サテライトキャンパスでは、利用者獲得に向けた取組が功を奏し、特に学外者の利用件数が増加するとともに、利用料収入も着実に向上してきている。しかし、本学の教育活動においては十分な利用がなされておらず、サテライトキャンパスの設置目的である「本学の教育研究, 社会貢献を推進するための新たな活動拠点」であることは達成されているとは言いがたい状況であると考える。また、運営スタッフの十分な増強がないまま早朝や夜間開館を進めてきた結果、運営スタッフの対応（勤務シフトなど）も余裕がない状況である。

これらを踏まえ、次年度においては、サテライトキャンパスの設置目的を踏まえた運営方針を検討するとともに、開館時間等についても検討を行う予定である。

（２）ネットワーク大学コンソーシアム岐阜について

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜では、現在の将来ビジョンが到達年度を迎えたことを踏まえ、現在次期将来ビジョンを策定中である。それを踏まえ、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜を取り巻く関係者や地域社会の発展に寄与するため、既存の取組のみならず、新たな事業を検討する必要がある。

特に、教育連携推進事業における社会の変化に対応した事業や加盟機関の学生交流を推進する事業、高大連携・情報発信事業における高大接続事業、教員免許状更新講習事業における受講者増加に対応した教員免許状更新講習の開講などの検討に取り組んでいきたい。

平成 28 年度教職課程支援部門活動報告

部門長　別府　哲

１．会議等の記録

会議の実施日と主な審議議題は以下の表 1 のとおりである。

表１　教職課程支援部門会議

開催日	主な審議議題
４月２７日	⑴平成 28 年度教育実習・養護実習について ⑵平成 28 年度教育実習・養護実習事後指導について ⑶平成 28 年度教職実践演習について ⑷平成 28 年度前学期非常勤講師の採用について
６月　９日	(1)平成 28 年度教育実習・養護実習事後指導について (2)平成 28 年度教職実践演習について (3)履修登録取消願の受理判定審査について (4)平成 29 年度教育実習事前指導・教育実習ガイダンスの実施日について (5)教職科目全体を俯瞰した指導の在り方に係る協議会について (6)教員免許状更新講習の実施に伴う学内分配金について
７月１９日	(1)平成 28 年度後学期全学共通教職科目の開講について (2)平成 29 年度教育実習・養護実習の実習実施予定校について
１０月２４日	(1)教育実習・養護実習事前指導について (2)平成 29 年度全学共通教育教職課程の授業予定について (3)平成 28 年度後学期非常勤講師の採用について (4)平成 28 年度岐阜県教員免許状更新講習に係る学内分配金について
１２月　６日	(1)教員免許状更新講習開設経費の分配について（秋期開設分）(メール会議)
１月２７日	(1)平成 29 年度教職課程要覧について (2)教育実習実施手順マニュアルについて (3)平成 29 年度岐阜県教員免許状更新講習の開催について
３月１７日	(1)平成 28 年度後学期の受講及び成績評定の状況について (2)教職実践演習について (3)教職科目の英語表記について (4)平成 29 年度「教職科目全体を俯瞰した指導の在り方に係る協議会」の委員委嘱について (5)紀要の作成について

２．活動内容及び成果

（１）「教職課程」受講者数と教員採用試験結果

表 2，表 3 にみられるように，教育学部以外で 1 年次生から 4 年次生あわせて，前期で 138 名，後期で 130 名の学生が，教員免許取得のための「教職課程」を受講した。そして，表 4 に示したように，4 年次生および大学院生のうち 9 名が教員採用試験を受験し合格者は 4 名(合格率 44.0%)であった。合格率は，他の教員養成学部と比較しても遜色ないものであった。

表２　平成 28 年度前学期　全学共通「教職課程」受講者数

年　次	合　計	内　訳			
		工学部	応用生物科学部		医学部
		応物コース	生産環境	応用生命	看護学科
１年次	４３	７	１７	１２	７
２年次	４１	７	１７	７	１０
３年次	２２	９	５	４	４
４年次	３０	８	１５	３	４
院　生	２	１	１	０	０
合　計	１３８	３２	５５	２６	２５

表３　平成 28 年度後学期　全学共通「教職課程」受講者数

年　次	合　計	内　訳			
		工学部	応用生物科学部		医学部
		応物コース	生産環境	応用生命	看護学科
１年次	３４	６	１１	１０	７
２年次	４１	７	１７	７	１０
３年次	２３	９	５	５	４
４年次	３０	８	１５	３	４
院　生	２	１	１	０	０
合　計	１３０	３１	４９	２５	２５

表４　平成 28 年度・教員採用試験結果

学部・研究科	区分(教科)	一次選考試験		二次選考試験	
		受験者	合格者	受験者	合格者
工学部・工学研究科	高等学校教諭(数学)	３（１）	１（１）	１（１）	１（１）
応用生物科学部	高等学校教諭(理科)	２	１	１	１
	高等学校教諭(農業)	１	１	１	０
医学部看護学科	養護教諭	３	３	３	２

( )は院生で内数

（２）教職課程の充実について

教職支援部門と各学部での授業の連携をより充実させ、取り組みの共同を図るため、教職支援部門特任教授と各学部で授業をご担当いただいている先生方との対面会議（「教職科目全体を俯瞰した指導の在り方に係る協議会」）を昨年度初めて開催した。それを今年度は年２回実施し、意見交換を行った。今後も継続することで一貫性をもった教職課程の構築と指導の充実を図っていくこととした。

３．課題及び次年度の取組方針

次年度も，工学部・応用生物学部・医学部看護学科での教員免許取得希望者に対し，内容を十分吟味した授業と，個人個人の状況に応じた丁寧な指導を徹底していきたい。また，教職課程支援部門と各学部の連携の一層の充実と，岐阜県や近隣の高校に対し，岐阜大学の教育学部以外で上記のような教員免許取得が可能であることを広報活動が継続した課題である。

平成 28 年度キャリア支援部門活動報告

部 門 長　土田　　亮
副部門長　坂口 菜朋子

１．会議等の記録

表１　キャリア支援部門会議

開催日	主な審議議題
4 月 18 日	・学生ボランティア活動支援業務について ・今年度の事業計画について
5 月 9 日	・基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業について
6 月 20 日	・基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業の申請について ・産学連携による人材育成のための授業への講師派遣について
7 月 11 日	・「先輩社会人」との交流会の開催について
9 月 5 日	・「先輩社会人」との交流会の開催について ・キャリア支援部門ＦＤについて
11 月 10 日	･授業改善のためのアンケートの実施について
12 月 8 日	･授業改善のためのアンケートの実施について ・キャリア支援部門ＦＤの実施結果について ・中部経済連合会からの「企業・人材プール」リストの提供及び活用について
1 月 5 日	･１月１日付け異動について
2 月 16 日	・授業改善のためのアンケートの実施について ・キャリア支援部門ニュースの発行について
3 月 16 日	・次年度の学生ボランティア支援について ・岐阜大学学生企業展について

表２　イノベーション創出若手人材養成部会会議

開催日	主な審議議題
4 月 18 日	・プログラムの参加者について ・イノベプログラム概要及びイノベ NEWS LETTER について
5 月 9 日	・プログラム聴講生について ・エンライトメント・レクチャーの実施について ・アイデア・トレーニング・キャンプの実施について
6 月 20 日	・アイデア・トレーニング・キャンプの実施について
7 月 11 日	・学外研修プログラムについて ・科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業　次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（HIRAKU）への応募結果について ・第７回プログラム研修生企業向け発表会について
9 月 5 日	・イノベーションスキル・プログラムの成績について ・イノベ部会ＦＤの開催について
11 月 10 日	・学外研修プログラム（インターンシップ）について ・イノベ部会ＦＤの実施結果について
12 月 8 日	・平成 29 年度プログラムについて ・平成 29 年 4 月期実践プログラム募集要項について
1 月 5 日	・平成 29 年度イノベーション創出若手人材養成プログラム研修生・聴講生の募集について ・科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業　次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」への応募結果について
2 月 16 日	・学外研修プログラム（インターンシップ）の成績について ・プログラム修了証，修了証（講義）の授与について
3 月 16 日	・平成 29 年度プログラム研修生の応募者数・合格者数について

２．活動内容及び成果

＜キャリア支援＞

・学生の基盤的能力向上を図るための自主的活動支援

基盤的能力の育成を目的とする課題を募集し，3 つの団体（学生ボラネット，いちごの華かがり振興チーム及び iGEM の広報活動）に各 10 万円の活動支援を行った。

（申請及び成果報告時に学生のプレゼンを行った。）

・学生ボランティア活動支援

ぎふNPOセンターと委託契約を結びメンター1名が来学し，水曜日及び木曜日の午後学生ボラネットへの助言・指導等活動支援を行った。

・先輩社会人との交流会開催

「先輩社会人と語るー学生から社会人への飛躍―」と題して10月5日（水）の就職ガイダンス終了後に5学部・5名の先輩社会人が参加し，大学時代の生活，就職活動等の経験談について話し合い交流を図った。（参加者17名）

・授業改善のためのアンケートの実施

キャリア形成科目受講生（23名）を対象としたアンケートを2月7日に実施した。結果の分析は，次年度分と合わせて行う。

・キャリア形成に関するFDの開催

「現場からの期待と新人の持つ不安、ギャップを乗り越える～イノベーター創出に向けて～」）」と題して11月に開催した。（学生，教職員20名参加）

・研究会への出席

岐阜県インターンシップ推進協議会成果報告会，岐阜県インターンシップ推進会議，東海地域インターンシップ推進協議会総会へ出席した。

・キャリア支援部門ニュースの発行

部門の活動紹介，卒業生からの寄稿，プロジェクト型インターンシップ等を掲載し2016年10月と2017年3月の年2回発行した。

・キャリア支援部門会議とイノベーション創出若手人材養成部会会議を合同で毎月1回開催した。

＜就職支援＞

・求人情報の提供

学生に公開している本学への求人件数（学部受付分を除く）は、2月末現在1,610件であった。

・就職活動に関する相談

就職活動に関する疑問や悩みの相談から、エントリーシート・履歴書の添削、面接指導など就職活動全般にわたるアドバイスを行っており、その件数は 2 月末現在で1,450件（窓口対応（随時）383件、相談員対応件数（予約制）1,067件）であった。

・各種事業の実施

① 就職（活動支援）ガイダンス

講師による講義や実習等を就職活動の流れに沿ったテーマ構成で実施し、積極的に取り組む気構えを植えつけることを目的とするもので、6月から1月までの間に計20回開催し、のべ2,600名以上の学生参加があった。

②公務員業務説明会

就職ガイダンスの一環として、1 月 18 日と 25 日に 13 機関を招いて実施しており、合計で 185 名の学生参加があった。

③4 年生・M2 未内定者を対象としたガイダンス

①就職ガイダンスと②公務員業務説明会は 3 年生・M1 が対象であるが、並行して未内定のまま就職活動を続けている 4 年生・M2 向けの事業として、6 月に自身の振り返りと新たなサポートのためのリスタートガイダンスを実施し、9 名の学生参加があった。

④グループ面接体験講座（模擬面接）

採用試験で重視される面接について、実践を通して自信を持った受け答えができるよう、緊張感の中での面接力の向上を図ることを目的とし、外注により 3 月～5 月に実施するもので、対象である平成 29 年 3 月卒業・修了予定者から、のべ 169 名の参加があった。

⑤グループディスカッション対策講座ほか

最近、採用試験に取り入れる企業・自治体が増えているグループディスカッションやエントリーシートの書き方について、本学の相談員 2 名が「就活セミナー」として講座を実施するもので、対象である平成 29 年 3 月卒業・修了予定者からのべ 349 名の参加があった。

⑥「岐阜大学学生企業展」の支援

本学の学内合同企業説明会は 10 数年の歴史を持つ学生有志による「岐阜大学学生企業展」がその役目を担っており、これを唯一の全学合同企業説明会として、また学生のキャリア形成支援（自主活動）を側面から支援している。今年度は 3 月 9 日（木）、10 日（金）に 175 社の企業を招いて開催し、2 日間で約 500 名の学生参加があった。

⑦外国人留学生の就職支援

留学生は日本の就職活動のルールになじめず、失敗するケースも多いと聞く。そこで前述の就職ガイダンスに加え、10 月から 1 月まで 6 回にわたって留学生のための就職支援講座を実施し、その後の個別カウンセリングを 3 月まで実施した。

＜イノベーション創出若手人材養成＞

- 前学期にエンライトメント・レクチャー（8 回），ビジネス英語（15 回），アイデア・トレーニング・キャンプ（3 日間）を実施した。これらのプログラムをどれでも 1 つから自由に受講できる「聴講生」にはのべ 21 名の博士後期課程学生が参加した。学外研修（インターンシップ）を含むすべてのプログラムを受講する「プログラム研修生」には博士後期課程学生 4 名が参加した。
- 平成 28 年 7 月 29 日にプログラム研修生による第 7 回企業向け発表会を実施した。参加者は 17 名であった。

・ 平成 28 年 11 月 2 日にイノベーション創出若手人材養成プログラム FD として「企業における研究開発 －博士人材の活用について－」（講師：株式会社リコー未来技術研究所　顧問技師長　山口高司氏）を開催した。参加者は 18 名であった。
・ 平成 29 年 1 月にニュースレター第 2 号を発行した。
・ 平成 29 年 1 月 16 日より平成 29 年度第 8 期プログラム研修生及び聴講生の募集を開始した。募集要項・ニュースレターを全研究科の博士後期課程 1・2 年（連合獣医学研究科は 1 ~3 年）及び進学予定の博士前期課程 2 年の学生に配布した。
・ また日本語･英語による説明会を計 10 回開催した。その結果プログラム研修生 4 名，聴講生 20 名が参加予定である。
・ 平成 29 年 3 月に岐阜大学イノベーション創出若手人材養成プログラム概要を発行した。
・ 平成 29 年 3 月 17 日に岐阜大学イノベーション創出若手人材養成プログラム第 7 回成果報告会を実施した。参加者は 26 名であった。

３．課題及び次年度の取組方針

課題：
・ キャリア支援部門主催 FD,交流会の学生への周知・参加者の確保
・ イノベーション創出若手人材養成プログラムへの参加学生の確保と定着化，学生・教職員への取り組みの周知

次年度取り組み方針
１．キャリア形成支援事業
（１）学生の基盤的能力向上を育成する学生支援プロジェクト事業
課題募集・選考　　採択予定　@10 万円×３団体
（２）学生ボランティア活動支援
「ぎふＮＰＯセンター」と業務委託契約（COC+の経費）
メンターが週 2 回（１日 4.5 時間）ボランティア活動の相談・指導を行う。
（３）先輩社会人との交流会開催
就職ガイダンスの時間を利用して開催し，参加学生が増えるよう企画する。
（岐阜大学同窓会連合会からの推薦により，先輩社会人 5 学部・5 名が参加）
（４）授業改善のためのアンケートの実施
キャリア形成科目受講生を対象に前学期と後学期の 2 回アンケートを実施する。
結果の分析は，前年度分と今年度分と一緒に行う。

２．キャリア形成に関する研究・広報活動

（１）FDの開催

（２）研究会への出席

「岐阜県インターンシップ推進協議会成果報告会」

「学生支援機構各種研修会」等

（３）キャリア形成に関する図書・資料の整備

（４）キャリア支援部門ニュースの発行（年２回　10月号・3月号）

部門の活動紹介，岐阜大学同窓会連合会の協力による先輩社会人からの寄稿等

３．イノベーション創出若手人材養成プログラムの実施

（１）プログラムの実施，企業向け発表会，プログラム研修生・聴講生の募集及び説明会開催，選考，インターンシップ受入企業への訪問，成果報告会，修了証授与式

４．イノベーション創出若手人材養成プログラムに関する研究・広報活動

（１）FD の開催

（２）NEWS　LETTER の発行（年１回）

（３）プログラム概要の発行（年１回）

（４）文部科学省科学技術人材育成費補助事業シンポジウムへの出席

（５）コンソーシアム事業への参加　「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（代表：広島大学）